別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　ショウトクガクエン 学校法人　聖徳学園	
フリガナ 大学の名称	ギフショウトクガクエンダイガク 岐阜聖徳学園大学	
大学本部の位置	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地	
大学の目的	教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、建学の精神にのっとり宗教的情操を基調として、教養を培い、広く知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、それぞれの学部の特色を発揮し、もって現代社会における有為な人材を育成することを目的とする。	
新設学部等の目的	建学の精神にのっとり、多文化共生社会において文化背景の異なる人々と相互理解を深め、友好的な人間関係を構築し、協働して問題解決のできる人材を育成することを目指す。	

	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
新設学部等の概要	人文学部	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次		
	人文学科	4	150	―	600	学士（人文学）	文学関係	令和7年4月 第1年次	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地	令和8年4月に岐阜キャンパスに移転予定 移転先 岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地 新設学部の基礎となる学部 外国語学部外国語学科
	計		150	―	600					

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	外国語学部（廃止） 　外国語学科　（△150） ※令和7年4月　学生募集停止 岐阜聖徳学園大学短期大学部（廃止） 　幼児教育学科第一部　（△100） ※令和7年4月　学生募集停止 　幼児教育学科第三部　（△50） ※令和6年4月　学生募集停止

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	人文学部　人文学科	202科目	105科目	5科目	312科目	124単位

	学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
新設	人文学部　人文学科	人 11 (9)	人 7 (6)	人 6 (6)	人 0 (0)	人 24 (21)	人 0 (0)	人 76 (76)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (9)	7 (6)	6 (6)	0 (0)	24 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	11 (9)	7 (6)	6 (6)	0 (0)	24 (21)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			

	る者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
	計（ａ～ｄ）	11 (9)	7 (6)	6 (6)	0 (0)	24 (21)		
分	計	11 (9)	7 (6)	6 (6)	0 (0)	24 (21)	0 (0)	76 (76)
既	教育学部　学校教育課程	40 (37)	26 (21)	11 (11)	0 (0)	77 (69)	0 (0)	95 (95)
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	37 (34)	26 (21)	11 (11)	0 (0)	77 (69)		
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	37 (34)	26 (21)	11 (11)	0 (0)	77 (69)		
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	40 (37)	26 (21)	11 (11)	0 (0)	77 (69)		
	経済情報学部　経済情報学科	15 (14)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	24 (23)	0 (0)	43 (43)
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	15 (14)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	24 (23)		
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	15 (14)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	24 (23)		
設	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	15 (14)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	24 (23)		
	看護学部　看護学科	9 (8)	5 (5)	4 (4)	8 (8)	26 (25)	2 (2)	31 (31)
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (8)	5 (5)	4 (4)	8 (8)	26 (25)		
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		
	小計（ａ～ｂ）	9 (8)	5 (5)	4 (4)	8 (8)	26 (25)		
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
分	計（ａ～ｄ）	9 (8)	5 (5)	4 (4)	8 (8)	26 (25)		
	計	64 (59)	39 (34)	16 (16)	8 (8)	127 (117)	2 (2)	169 (169)
合　　計		75 (68)	46 (40)	22 (22)	8 (8)	151 (138)	2 (2)	245 (245)

職種	専属	その他	計
事務職員	79 (79)	16 (16)	95 (95)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	1 (1)	0 (0)	1 (1)
その他の職員	3 (3)	0 ()	3 (3)
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	83 (83)	16 (16)	99 (99)

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
校舎敷地	0㎡	139,411㎡	0㎡	139,411㎡
その他	0㎡	38,762㎡	0㎡	38,762㎡
合計	0㎡	178,173㎡	0㎡	178,173㎡

校地は下記の学校と共用
（面積等の詳細については別紙参照）
岐阜聖徳学園大学短期大学部
幼児教育学科第一部100人
幼児教育学科第三部 50人
岐阜聖徳学園大学附属中学校
270人
岐阜聖徳学園大学附属小学校
270人
岐阜聖徳学園大学附属幼稚園
200人

校地借用面積① 1,913㎡
貸与者 伊藤清美
使用期間 令和4年4月1日～令和7年3月31日
校地借用面積② 41,166㎡
貸与者 坂井田節 他27名
使用期間 平成20年4月から20年間

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	8,053.40㎡ (3015.37㎡)	41,809.17㎡ (42,765.93㎡)	0 (4,081.27㎡)	49,862.57㎡ (49,862.57㎡)

岐阜聖徳学園大学短期大学部と共用
幼児教育学科第一部100人
幼児教育学科第三部50人

教室・教員研究室	教室	257室	教員研究室	210室	全学

図書・設備 新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	図書 電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	学術雑誌 電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点
人文学部人文学科	63,200〔6,530〕 (60,055〔5,931〕)	445〔263〕 (325〔263〕)	103〔15〕 (65〔3〕)	7〔7〕 (7〔7〕)	(　　)	(　　)
計	63,200〔6,530〕 (60,055〔5,931〕)	445〔263〕 (325〔263〕)	103〔15〕 (65〔3〕)	7〔7〕 (7〔7〕)	(　　)	(　　)

大学全体の共用分（2024年4月1日現在）
図書：265,696冊（外国書：42,436冊）
電子図書：396点
学術雑誌：223種（外国書：18種）
学術雑誌うち電子ジャーナル：8種（すべて外国書）
視聴覚資料：5,511点

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	9,623.40㎡	0㎡	8,506.28㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要 経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
教員１人当り研究費等		375千円	375千円	375千円	375千円	― 千円	― 千円
共同研究費等		2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	― 千円	― 千円
図書購入費	3,651千円	4,732千円	4,966千円	5,223千円	5,506千円	― 千円	― 千円
設備購入費	28,531千円	15,000千円	1,000千円	1,000千円	500千円	― 千円	― 千円
学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
		1,360千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	― 千円	― 千円
学生納付金以外の維持方法の概要	資産運用収入、雑収入　等						

図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む

大学等の名称	岐阜聖徳学園大学大学院							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
大学院国際文化研究科	年	人	年次 人	人		倍		

	国際教育文化専攻	2	15	-	30	修士 （国際文化）	0.16	平成10年度	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地	
	国際地域文化専攻	2	10	-	20	修士 （国際文化）	0	平成10年度	同上	
	大学院経済情報研究科			-						
	経済情報専攻（前期）	2	10	-	20	修士 （経済）	0.00	平成16年度	岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地	
	経済情報専攻（後期）	3	3	-	9	博士 （経済情報	0.00	平成16年度	同上	

既設大学等の状況	大学等の名称	岐阜聖徳学園大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	教育学部									
	学校教育課程	4	330	-	1,320	学士（教育）	1.13	平成21年度	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地	
	外国語学部									
	外国語学科	4	-	-	-	学士（外国語）	0.64	平成14年度	同上	令和７年度より学生募集停止
	看護学部									
	看護学科	4	80	-	320	学士（看護学）	1.04	平成27年度	同上	
	経済情報学部									
	経済情報学科	4	150	-	600	学士（経済学）	1.12	平成10年度	岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地	

	大学等の名称	岐阜聖徳学園大学短期大学部								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	幼児教育学科　第一部	2	-	-	-	短期大学士 （幼児教育）	-	昭和41年度	岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地	令和７年度より学生募集停止
	幼児教育学科　第三部	3	-	-	-	短期大学士 （幼児教育）	-	昭和43年度	同上	令和６年度より学生募集停止

	名　　称　：　情報教育研究センター 目　　的　：　情報処理・情報教育研究の向上と発展に寄与すること 所 在 地　：　岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地 設置年月　：　平成８年４月 規 模 等　：　事務室　107.10㎡（大学建物　羽島キャンパス　６号館４階の１室）	
	名　　称　：　経済情報研究所 目　　的　：　経済・経営・情報等に関する研究を行うこと 所 在 地　：　岐阜県岐阜市中鶉一丁目３８番地 設置年月　：　平成１１年６月 規 模 等　：　事務室　117.33㎡（大学建物　岐阜キャンパス　３号館２階の１室）	
	名　　称　：　仏教文化研究所 目　　的　：　本学の建学の精神を体し、仏教文化及びその関連領域に関する総合的学術研究並びに国際的研究の交流を行い、学術研究の向上に寄与すること	

附属施設の概要	すること 所 在 地　：　岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地 設置年月　：　平成１２年４月 規 模 等　：　事務室　174.96㎡（大学建物　羽島キャンパス　本館１階の１室）	
	名　　称　：　地域・社会連携センター 目　　的　：　大学施設や設備、蓄積されている教育・研究を中心とした知的財産などを学外に公開・ 開放するとともに地域との連携協力により社会に貢献すること 所 在 地　：　岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地 設置年月　：　平成１６年４月 規 模 等　：　事務室　71.06㎡（大学建物　羽島キャンパス　本館２階の１室）	
	名　　称　：　デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）推進センター 目　　的　：　センターは、デジタルトランスフォーメーション（以下「ＤＸ」という。）に関連する 教育研究を行い、もってＤＸに関連する科学技術分野の教育研究の進展に資すること 所 在 地　：　岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地 設置年月　：　令和４年４月 規 模 等　：　事務室　133.87㎡（大学建物　羽島キャンパス　６号館４階の１室）	
	名　　称　：　教職教育研究センター 目　　的　：　社会との交流を推進し、教育・研究のインフォメーションを図ること 所 在 地　：　岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目１番地 設置年月　：　令和５年４月 規 模 等　：　事務室　214.20㎡（大学建物　羽島キャンパス　６号館１階の２室）	

（注）
1　共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
3「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
4　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
6　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
7　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人文学科等）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
建学の精神に関する科目	建学の精神	宗教学Ⅰ	1前	○	2			○			1					1	
		宗教学Ⅱ	1後	○	2			○			1					1	
		小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			1	0	0	0	0	1	
教養基礎科目	基礎力	基礎セミナーⅠ	1前	○	1				○		9	7	6				共同（一部）
		基礎セミナーⅡ	2前	○	1				○		9	7	6				共同（一部）
		ICT基礎	1前	○	1				○			1					
		スポーツⅠ	1前	○	1				○							3	共同
		スポーツⅡ	1後	○	1				○							3	共同
		データサイエンス入門	1後	○	2			○								2	
		データサイエンス基礎	2前			1			○							2	オムニバス
	言葉とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ	1前			1			○							1	
		英語コミュニケーションⅡ	1後			1			○							1	
		英語Ⅰ	2前			1			○							1	
		英語Ⅱ	2後			1			○							1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	1前			1			○		1						
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	1後			1			○		1						
		ドイツ語コミュニケーションⅢ	2前			1			○		1						
		フランス語コミュニケーションⅠ	1前			1			○							1	
		フランス語コミュニケーションⅡ	1後			1			○							1	
		フランス語コミュニケーションⅢ	2前			1			○							1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1前			1			○				1				
		中国語コミュニケーションⅡ	1後			1			○				1				
		中国語コミュニケーションⅢ	2前			1			○				1				
		外国文化事情ⅠA	2後			1			○			1					
		外国文化事情ⅠB	2後			1			○			1					
	人文科学	映画学	1前			2		○								1	
		心理学	1前・後			2		○								1	
		日本文化論	1後			2		○					1				
		歴史学	1前・後			2		○								1	
		文学	1前・後			2		○								1	
	社会科学	日本国憲法	1前・後			2		○								1	
		法学（国際法を含む。）	1前・後			2		○								1	
	自然科学	生物と環境	1前・後			2		○								1	
		地理学	1前・後			2		○								1	
		数学	1前			2		○								1	
	複合領域	現代社会と福祉	1前・後			2		○								1	
		岐阜学	1前			2		○								1	
		芸術論	1前・後			1			○			1				1	
		統計入門	1後			2		○								1	
		スポーツトレーニング概論	1前・後			2		○								1	
		スポーツと健康	1前・後			2		○								1	
		小計（38科目）	－	－	7	47	0	－			9	7	6	0	0	19	

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人文学科等）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考	
教養科目の代替科目※1		日本文化事情Ⅰ	1前			2		○								1		
		日本文化事情Ⅱ	1後			2		○								1		
		日本社会事情Ⅰ	1前			2		○								1		
		日本社会事情Ⅱ	1後			2		○								1		
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	1		
言葉とコミュニケーションの代替科目※1		日本語コミュニケーションⅠ	1前			1			○							1		
		日本語コミュニケーションⅡ	1後			1			○							1		
		日本語Ⅰ	1前			1			○							1		
		日本語Ⅱ	1後			1			○							1		
		小計（4科目）	－	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	1		
	共通科目	English Communication A	1前	○	1				○				1			5		
		English Communication B	1前	○	1				○				1			5		
		English Communication C	1後	○	1				○				1			5		
		English Communication D	1後	○	1				○				1			5		
		日本語スキル入門	1前・後	○	1				○		1					1		
		ICT活用	1後		1				○			1						
		異文化論入門	2前	○	2			○			1							
		心理学入門	1後	○	2			○								1		
		人間と文化	1後	○	2			○			5	3	4				オムニバス	
		卒業研究Ⅰ	3後	○	2			○			11	7	6					
		卒業研究Ⅱ	4前	○	2			○			11	7	6					
		卒業研究Ⅲ	4後	○	2			○			11	7	6					
		データサイエンス（地理空間）	3前			1			○			1						
		データサイエンス（ことば）	3後			1			○							1		
		情報実務Ⅰ	2前			1			○							1		
		情報実務Ⅱ	2後			1			○							1		
		情報実務Ⅲ	3前			1			○			1						
		情報実務Ⅳ	3後			1			○			1						
		地域創生探究Ⅰ	2前			1			○			2	1				オムニバス・共同（一部）	
		地域創生探究Ⅱ	2後			1			○			2	1				オムニバス・共同（一部）	
		インターンシップ(講義)	2前			2		○								1		
		インターンシップ(演習)	2前			1			○							1		
		エアライン講座Ⅰ	2後			1			○							1		
		エアライン講座Ⅱ	3前			1			○							1		
		キャリアデザインⅠ	1後		2			○								1		
		キャリアデザインⅡ	2前			2		○								1		
		キャリアデザインⅢ	2後			2		○								1		
		キャリアデザインⅣ	3前			2		○								1		
		キャリアデザインⅤ	3前			2		○								1		
		キャリアデザインⅥ	3後			2		○								1		
		社会人基礎力養成	2後			2		○								1		
		小計（31科目）	－	－	20	25	0	－			11	7	6	0	0	13		
		英語リスニングⅠ	1前	○		1			○		1					3		★
		英語リスニングⅡ	1後	○		1			○		1					3		★
		英語リーディングⅠ	1前	○		1			○		1					1		★
		英語リーディングⅡ	1後	○		1			○		1					1		★
		英語リーディングⅢ	2前			1			○			1	1			1		★
		英語リーディングⅣ	2後			1			○			1	1			1		★
		英語ライティングⅠ	1前	○		1			○		1	1				3		★
		英語ライティングⅡ	1後	○		1			○		1	1				3		★
		Academic WritingⅠ	2前			1			○							5		★
		Academic WritingⅡ	2後			1			○							5		★
		英語音声基礎	1前・後	○		2		○				1				1		★
		英文法Ⅰ	1前	○		2		○				1	1			1		★
		英文法Ⅱ	1後	○		2		○				1	1			1		★
		English Communication E	2前			1			○							4		
		English Communication TE	2前			1			○		1					1		
		English Communication F	2後			1			○							4		

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人文学科等）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考	
英語英米文化専攻専門科目		English Communication TF	2後			1			○		1					1		
		Reading and Discussion Ⅰ	3前			1			○				1			3		★
		Reading and Discussion Ⅱ	3後			1			○				1			3		★
		Research and Presentation Ⅰ	4前			2		○					1			1		
		Research and Presentation Ⅱ	4後			2		○					1			1		
		英語リーディングⅤ	3前			2		○								1		
		英語リーディングⅥ	3後			2		○								1		
		Academic Writing Ⅲ	3前			2		○								2		
		Academic Writing Ⅳ	3後			2		○								2		
		英文法Ⅲ	2前・後			2		○			1							
		英語学Ⅰ	2前・後	○		2		○			1	1						
		English Linguistics Ⅰ	2前	○		2		○			1	1						
		英語学Ⅱ	2前・後	○		2		○			1	1						
		English Linguistics Ⅱ	2後	○		2		○			1	1						
		英語学Ⅲ	3前・後			2		○				1						
		英語学Ⅳ	3前・後			2		○			1							
		イギリス文化研究Ⅰ	1前・後	○		2		○					1					
		British Studies Ⅰ	1前	○		2		○			1							
		アメリカ文化研究Ⅰ	1前・後	○		2		○				1						
		American Studies Ⅰ	1後	○		2		○			1							
		英語文学ⅠA	2前・後	○		2		○					1					
		英語文学ⅠB	2前・後	○		2		○				1						
		英語文学ⅡA	3前・後	○		2		○					1					
		英語文学ⅡB	3前・後	○		2		○				1						
		英米文学研究ⅠA	3前			2		○					1					
		英米文学研究ⅠB	3前			2		○				1						
		英米文学研究ⅡA	3後			2		○					1					
		英米文学研究ⅡB	3後			2		○				1						
		イギリス文化研究Ⅱ	2後	○		2		○					1					
		アメリカ文化研究Ⅱ	2前	○		2		○				1						
		British Studies Ⅱ	2後	○		2		○			1							
		American Studies Ⅱ	2前	○		2		○			1							
		イギリス文化研究Ⅲ	3後			2		○					1					
		アメリカ文化研究Ⅲ	3前			2		○				1						
		British Studies Ⅲ	3後			2		○			1							
		American Studies Ⅲ	3前			2		○			1							
		Great Ideas in Science Ⅰ	3前			2		○			1							
		Great Ideas in Science Ⅱ	3後			2		○			1							
		時事英語Ⅰ	2前			2		○				1				1		
		時事英語Ⅱ	2後			2		○				1				1		
		時事問題研究	2後	○		2		○				1						
		デジタルメディア論	3前	○		2		○				1						
		Business Communication Ⅰ	3前			2		○			1					1		
		Business Communication Ⅱ	3後			2		○			1					1		
		Business Communication Ⅲ	4前			2		○			1					1		
		Business Communication Ⅳ	4後			2		○			1					1		
		教育英語研究Ⅰ	2前			2		○			1							
		教育英語研究Ⅱ	2後			2		○			1							
		第二言語習得論	3前	○		2		○			1							
		学習英文法論	3後	○		2		○			1							
		小学校英語教育研究Ⅰ	2前			2		○								1		
		小学校英語教育研究Ⅱ	2後			2		○								1		
		資格英語Ⅰ	1後			1			○			1				1		
		資格英語Ⅱ	2前			1			○			1				1		
		資格英語Ⅲ	2後			1			○			1				1		
		資格英語Ⅳ	3前			1			○			1				1		
		言語ボランティア活動	2前・後			1				○	1							
		留学の安全と知識	1前			2		○			5	5	3				オムニバス	
		小計（74科目）	－	－	0	127	0		－		6	5	4	0	0	14		

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人文学科等）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考	
専門科目	日本語日本文化専攻専門科目	文章表現	1前・後			1			○				1					★
		日本語文法Ⅰ	2前	○		2		○			1							★
		日本語文法Ⅱ	2後	○		2		○			1							★
		日本語学入門	2前	○		2		○					1					★
		日本語学Ⅰ	2後			2		○					1					★
		日本語学Ⅱ	3前			2		○					1					
		日本語学Ⅲ	3後			2		○					1					
		日本語史Ⅰ	3前	○		2		○			1							★
		日本語史Ⅱ	3後			2		○			1							
		日本語学演習	4前	○		1			○				1					
		日本文学入門	1後	○		2		○					1					★
		日本文学講読A	2後	○		2		○			1							★
		日本文学研究ⅠA	3前			2		○								1		
		日本文学研究ⅡA	3後	○		2		○			1							
		日本文学講読B	2後	○		2		○					1					★
		日本文学研究ⅠB	3前	○		2		○					1					
		日本文学研究ⅡB	3後			2		○					1					
		日本文学史Ⅰ	3前			2		○								1		★
		日本文学史Ⅱ	3後	○		2		○					1					
		日本文学演習A	4前	○		1			○		1							
		日本文学演習B	4前	○		1			○				1					
		日本文化入門	1前	○		2		○				1				1		★
		日本文化研究Ⅰ	2後	○		2		○				1						★
		日本文化研究Ⅱ	3前			2		○				1						
		日本文化演習	4前	○		1			○			1						
		日本文化実技演習（陶芸）	3後			1			○			1						
		日本研究Ⅰ	2後	○		2		○					1					★
		日本研究Ⅱ	3前			2		○					1					
		比較文学	3後	○		2		○					1					★
		比較文化	3前	○		2		○				1						
		日本語教育学入門	2前	○		2		○			1							★
		日本語教育研究Ⅰ	2後	○		2		○			1							★
		日本語教育研究Ⅱ	3前			2		○			1							
		日本語教育研究Ⅲ	3後			2		○								1		
		日本語教育演習	3前	○		1			○		1							
		日本語教育方法論	3後			2		○			1							
		日本語教育実地研究	4通			2				○	1							
		言語学入門	2前			2		○								1		
		対照言語学	3前	○		2		○					1					
		異文化コミュニケーション	2後	○		2		○								1		★
		日本語演習	2前			1			○		1							
		日本語研究Ⅰ	3前			2		○			1							
		日本語研究Ⅱ	3後			2		○					1					
		漢文学Ⅰ	3前	○		2		○				1						
		漢文学Ⅱ	3後			2		○				1						
		書道Ⅰ	2前			1			○							1		
		書道Ⅱ	2後			1			○							1		
		（留学生・帰国生徒の適用代替科目）																
		日本語アカデミックリーディングⅠ	1前			1			○							1		
		日本語アカデミックリーディングⅡ	1後			1			○							1		
		日本語アカデミックライティングⅠ	2前			1			○							1		
		日本語アカデミックライティングⅡ	2後			1			○							1		
		日本語総合演習Ⅰ	1前			1			○							1		
		日本語総合演習Ⅱ	1後			1			○							1		
		日本語総合演習Ⅲ	2前			1			○							1		
		日本語総合演習Ⅳ	2後			1			○							1		
		小計（55科目）	－	－	0	92	0		－		2	2	5	0	0	6		

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人文学科等）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考	
	歴史地理専攻専門科目	歴史学入門Ⅰ	1前	○		2		○				1						★
		歴史学入門Ⅱ	2後			2		○			1							★
		地理学入門Ⅰ	1前	○		2		○			1					1		★
		地理学入門Ⅱ	2後			2		○			1					1		★
		歴史学調査法	2後	○		2		○					1					★
		地理学調査法	2後	○		2		○			1					1		★
		世界と日本Ⅰ	1前			2		○			1							
		世界と日本Ⅱ	1後			2		○								1		
		地域研究（地理）	2前			2		○								1		
		地域研究（歴史）	2後			2		○					1					
		ジェンダー史	3前			2		○			1							
		日本と若者	3前			2		○					1					
		世界と若者	3後			2		○					1					
		都市と環境	3前			2		○			3	1	1				オムニバス	
		世界遺産研究	3後			2		○			3	1	1				オムニバス	
		多文化社会論	3前			2		○			1							
		日本史概論ⅠA	1前	○		2		○				1						
		日本史概論ⅠB	1後	○		2		○				1						
		日本史概論ⅡA	2前			2		○								1		
		日本史概論ⅡB	2後			2		○					1					
		史料講読ⅠA	2前	○		1			○			1						
		史料講読ⅡA	2後			1			○				1					
		日本史特講Ⅰ	3前	○		2		○				1						
		日本史特講Ⅱ	3後			2		○								1		
		日本史演習Ⅰ	3前	○		1			○			1	1					
		日本史演習Ⅱ	3後	○		1			○			1	1					
		日本史演習Ⅲ	4前			1			○			1	1					
		日本史演習Ⅳ	4後			1			○			1	1					
		外国史概論ⅠA	1前	○		2		○			1							
		外国史概論ⅠB	1後			2		○								1		
		外国史概論ⅡA	2前			2		○								1		
		外国史概論ⅡB	2後			2		○								1		
		史料講読ⅠB	2前	○		1			○		1							
		史料講読ⅡB	2後			1			○							1		
		史料講読ⅠC	3前			1			○							1		
		外国史特講Ⅰ	3前	○		2		○			1							
		外国史特講Ⅱ	3後			2		○								1		
		外国史演習Ⅰ	3前	○		1			○		1							
		外国史演習Ⅱ	3後	○		1			○		1							
		外国史演習Ⅲ	4前			1			○		1							
		外国史演習Ⅳ	4後			1			○		1							
		歴史学野外演習Ⅰ	3前			2			○				1					
		歴史学野外演習Ⅱ	4前			2			○				1					
		地理学概論	1後	○		2		○								1		★
		人文地理学	2前	○		2		○			1					1		★
		自然地理学	2前	○		2		○			1							★
		地誌学Ⅰ	2前	○		2		○			1							★
		地誌学Ⅱ	2後			2		○								1		
		地誌学特講	3前			2		○								1		
		地理学特講	3後			2		○								1		

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人文学科等）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考	
	地理学野外演習Ⅰ	3後			2			○		2						共同	
	地理学野外演習Ⅱ	4後			2			○		2						共同	
	地理と情報	2前			2		○			1					1		★
	地理学演習Ⅰ	3前	○		1			○		2							
	地理学演習Ⅱ	3後	○		1			○		2							
	地理学演習Ⅲ	4前			1			○		2							
	地理学演習Ⅳ	4後			1			○		2							
	日本文化と仏教Ⅰ	2前			2		○			1							
	日本文化と仏教Ⅱ	2後			2		○			1							
	史料講読ⅡC	3後			1			○		1							
	政治学概論（国際政治を含む。）	2後			2		○								1		
	社会学概論	2後			2		○					1					
	経済学概論（国際経済を含む。）	2前			2		○								1		
	哲学概論	1前			2		○								1		
	倫理学概論	2前			2		○								1		
	小計（65科目）	―	―	0	112	0	―			4	1	2	0	0	10		
教職課程科目	教育基礎論	1後				2	○								1		
	教師論	1前				2	○								1		
	教育の社会制度論	2前				2	○								1		
	教育心理学	1後				2	○								1		
	特別支援教育基礎	3前				2	○								1		
	教育課程論	3前				2	○								1		
	道徳教育の指導法	4前				2	○								1		
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	4前				2	○								1		
	教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）	3後				2	○				1						
	生徒・進路指導論	2後				2	○								1		
	教育相談	3後				2	○								1		
	介護等の体験（含事前事後指導）	3通				2		○		1							講義
	中学校教育実習（事前事後）	4通				1	○								1		
	中学校教育実習	4通				4			○						1		
	高等学校教育実習（事前事後）	4通				1	○			1							
	高等学校教育実習	4通				2			○	1							
	教職実践演習（幼・小・中・高）	4後				2		○		1	1				10	オムニバス	
	中等教科教育法Ⅰ（英語）	2前				2	○			1							
	中等教科教育法Ⅱ（英語）	2後				2	○			1							
	中等教科教育法Ⅲ（英語）	3前				2	○			1							
	中等教科教育法Ⅳ（英語）	3後				2	○			1							
	中等教科教育法Ⅰ（国語）	2前				2	○								1		
	中等教科教育法Ⅱ（国語）	2後				2	○								1		
	中等教科教育法Ⅲ（国語）	3前				2	○								1		
	中等教科教育法Ⅳ（国語）	3後				2	○								1		
	中等教科教育法Ⅰ（社会・地理歴史）	2前				2	○								1		
	中等教科教育法Ⅱ（社会・地理歴史）	2後				2	○								1		
	中等教科教育法Ⅲ（社会・公民）	3前				2	○								1		
	中等教科教育法Ⅳ（社会・公民）	3後				2	○								1		
	小計（29科目）	―	―	0	0	58	―			1	1	0	0	0	17		

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人文学科等）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考	
博物館学芸員資格科目	生涯学習概論	1後				2	○								1		
	博物館概論	2前				2	○			1	1	1			5	オムニバス	
	博物館経営論	2前				2	○								1		
	博物館資料論	2後				2	○				2	1			4	オムニバス	
	博物館資料保存論	3前				2	○								1		
	博物館展示論	3後				2	○								1		
	博物館教育論	4前				2	○								1		
	博物館情報・メディア論	2後				2	○								1		
	博物館実習	3後・4前				3			○		1						
	考古学	3後				2	○								1		
	小計（10科目）	－	－	0	0	21	－			1	2	1	0	0	10		
合計（312科目）		－	－	31	415	79	－			11	7	6	0	0	76		

学位又は称号	学士（人文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
4年以上在学し、建学の精神に関する科目から必修科目4単位、教養基礎科目から必修科目（基礎力の必修科目7単位、言葉とコミュニケーションの必修科目2単位）と選択科目を併せて合計14単位以上、専門科目から92単位以上、卒業のための選択科目として、教養基礎科目並びに専門科目の双方から14単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：49単位(年間)） 3言語(ドイツ語・フランス語・中国語)から1言語を選択し、同一言語2単位を履修すること。なお、人文学部の学生は、英語コミュニケーションI･Ⅱ及び英語Ⅰ･Ⅱを履修することができない。 ※1：外国人正規留学生・帰国生徒に適用 【英語英米文化専攻】 専門科目の選択科目のうち、English Communication EまたはEnglish Communication TEから1単位、English Communication FまたはEnglish Communication TFから1単位、英語学ⅠまたはEnglish LinguisticsⅠから2単位、英語学ⅡまたはEnglish LinguisticsⅡから2単位、イギリス文化研究ⅠまたはBritish StudiesⅠから2単位、アメリカ文化研究ⅠまたはAmerican StudiesⅠから2単位、英語文学ⅠAまたは英語文学ⅠBから2単位、英語文学ⅡAまたは英語文学ⅡBから2単位を選択必修とする。 【歴史地理専攻】 専門科目の選択科目のうち、日本史概論IA･IB･ⅡA･ⅡBまたは外国史概論IA･IB･ⅡA･ⅡBのいずれか4科目から2科目4単位、日本史演習I･Ⅱ、外国史演習I･Ⅱ、地理学演習I･Ⅱのうちいずれか2科目2単位を選択必修とする。 ★印は各専攻専門科目必修科目	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（２）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
建学の精神に関する科目	建学の精神	宗教学Ⅰ	○	現代社会には、実に様々な宗教が存在しているが、その中には人の欲望を充足させ拡大化させる傾向のものも多い。それに対して真実の宗教とは、人としての生き方・あり方を示し、日々の生活の中で直面する悩みや苦しみを乗り越えさせる働きをもつものである。本講義は、世界宗教や民族宗教などを概観することより始め、特に仏教精神を学ぶ。本学の建学の精神である仏教精神は、インドのカースト制を否定するなど、生命の平等性を示すものであり、『縁起』、『諸行無常』などの思想によって、生命の繋がりと儚さを知らせ、その尊厳性を示すものである。こうした学びは、人類共通の『生命とは何か』といった命題の答えを探ることにもなる。	主要授業科目
		宗教学Ⅱ	○	本講義は日本の宗教、主に神道と仏教について学ぶ。特に、本学の建学の精神と関わりの深い聖徳太子の仏教信仰と、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の仏教思想について詳しく考察する。聖徳太子の仏教信仰は、あらゆる生命の平等性に目覚め、他者に寛容な心を持ち、他者の救済を目指すことを志向するものであり、親鸞聖人の仏教思想も、あらゆる生命を救う阿弥陀仏の心に気づいて、自らを律し、浄土往生、即ち生死を超えた理想の心の実現を目指すものである。また、現代の真宗門徒のターミナルケアへの取り組み『ビハーラ活動』についても紹介する。これらを学ぶことは、日本人の『生死観とは何か』といった命題の答えを探ることになる。	主要授業科目
	基礎力	基礎セミナーⅠ	○	大学生にとって必要な社会的な基礎知識を学ぶと同時に、大学での勉学のあり方について考える。また、新しく得た知識を正しく理解し、批判的に考え、自分の意見を整理し、他者にわかりやすく伝えるように努めることができることを目的とする。 授業は7回の共通授業（『PROG』解説セミナーを含む）と8回の個別授業から成る。共通授業のテーマは、人文学部で必須の日本語表現力、英語力、ICTスキルズ等についてである。個別授業では大学生のスタディ・スキルズ（資料の探し方、レポートの書き方等）を学び、その活用練習を行う。さらに、社会人として必要な知識やマナーについても学ぶ。 （1　柏木　良明・2　大塚　容子・3　伊佐地　恒久・4　丹羽　都美・5　今井　亨・6　熊沢　秀哉・8　蜷川　祥美・9　大西　宏治・11　武井　寛・12　寺澤　由紀子・13　長尾　純・14　北村安裕・15　長谷川　信・16　宮原　淳・17　横久保　義洋・18　齋藤　正人・19　四戸　慶介・20　濱中　誠・21　ｳｨﾙｷﾝｿﾝ　ｶｰﾙ・22李　嘉・23　黒田　翔大・24　木村　美幸・／7回）（共同）	共同（一部） 主要授業科目
		基礎セミナーⅡ	○	大学生にとって必要な社会的な基礎知識を学ぶと同時に、大学での勉学のあり方を考える。「基礎セミナーⅡ」では特に効果的なプレゼンテーションの方法とレポートの書き方を中心に指導していく。さらに、新しく得た知識を正しく理解し、批判的に考えて他者にわかりやすく伝える方法を身に付けることができることを目的とする。 合同授業（日本語表現と英語学習ストラテジー等）のレポートをとおして、日本語での文章作成能力の向上を目指す。さらに、個別授業では効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。プレゼンテーションでは、グループ・プレゼンテーションと個人プレゼンテーションのスキルアップを目指す。 （1　柏木　良明・2　大塚　容子・3　伊佐地　恒久・4　丹羽　都美・5　今井　亨・6　熊沢　秀哉・8　蜷川　祥美・9　大西　宏治・11　武井　寛・12　寺澤　由紀子・13　長尾　純・14　北村安裕・15　長谷川　信・16　宮原　淳・17　横久保　義洋・18　齋藤　正人・19　四戸　慶介・20　濱中　誠・21　ｳｨﾙｷﾝｿﾝ　ｶｰﾙ・22李　嘉・23　黒田　翔大・24　木村　美幸・／7回）（共同）	共同（一部） 主要授業科目
		ICT基礎	○	コンピューターは、低価格化、小型化によりビジネスの道具として広く活用されるようになった。社会では、コンピュータの利用技術とあわせて、情報を適切に利用できる能力も求められる。授業では、コンピュータを活用するための基礎的な知識や技術を身に付け、文書作成、情報検索、電子メール利用などについて適切にできるようになることが目標となる。 授業では、ハードウェア、ソフトウェアの概要を中心に情報処理のしくみや取り扱いに関する基礎知識を学習する。文書作成にはMicrosoft Wordを使用して、報告書などが作成できる能力を身に付ける。また、前半の授業ではタイピング練習を毎回行い、すばやく正確な入力操作を習得する。なお、学習管理システムを使用して、資料提示、課題提出などを行う。	主要授業科目
		スポーツⅠ	○	多くのスポーツ種目を幅広く経験することで各々の楽しさを知り、自己のスポーツライフを振り返りながら生涯スポーツの実践に向けた基礎的学習を行うことができる。 また、複数の種目のルール、マナー、基本的動作を習得し、ゲームの状況に応じて活用する。 なお、受講生を3つのグループに分け、ローテーションしながら3種目のスポーツを行う。	共同 主要授業科目
		スポーツⅡ	○	多くのスポーツ種目を幅広く経験することで各々の楽しさを知り、自己のスポーツライフを振り返りながら生涯スポーツの実践に向けた基礎的学習を行うことができる。 また、複数の種目のルール、マナー、基本的動作を習得し、ゲームの状況に応じて活用する。 なお、受講生はA・B・Cコースのいずれかのコースを選び、各コースで3種目のスポーツを行う。	共同 主要授業科目
		データサイエンス入門	○	データサイエンスが社会でなぜ必要とされ、どのように利活用されているかを包括的に説明できるようになり、データの利活用について法的・倫理的・社会的観点から討論を行うことができる。日常の些細なできごとをデータサイエンスの目をとおして客観的に評価し、論理的思考過程を習得する。 現代社会のあらゆる分野で重要視されている、数理・データサイエンス、およびデータについての基礎的な事項について学ぶ。AIが社会実装されている実例をもとに、データサイエンスの是非や方法論についてグループディスカッションやPCでの実習など、アクティブラーニングを多用して習得する。	主要授業科目

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		データサイエンス基礎		ICTと人間の共通言語であるプログラミング言語の基礎を理解する。実際にプログラムをGoogle Colaboratory上で動作させる実習や、Pythonを用いたプログラミングを体験しながらアルゴリズムや統計学の基本的な概念を理解する。 （オムニバス方式） （25　姜　興起／7回） プログラミング言語の基本概念や原理を例題を用いて説明する。 （26　西澤　淳／8回） Pythonを用いたプログラミング等の実習を交え、アルゴリズムや統計学の基本的な概念について指導する。	オムニバス方式
		英語コミュニケーションⅠ		英会話力を向上させ、ネイティブスピーカーのように英語を話すための明確なトレーニングを行う。日本文化と西洋文化の話し方の違いを理解し、より効果的なコミュニケーションを図る。また、クラスでは語彙を学んだり、日常生活のトピックについてクラスメートと会話を行う。このコースが終了する頃には、年初に比べ、より流暢に、正確に、より複雑な英語を話すことができるようになる。小グループで会話と流暢さの練習をし、学生が自然な発音で会話できるように、様々な会話スキルを紹介し練習する。	
		英語コミュニケーションⅡ		「英語コミュニケーションⅠ」で学習したことを発展させ、英語で理解し表現する運用能力のレベルアップを目指す。「英語コミュニケーションⅠ」に引き続き、日常生活における基本的なコミュニケーション能力を養う。それぞれの単元において、聞くこと、話すことを中心に、特に自己表現を英語で行うことができる実践的な運用能力を養う。テキストを中心に、英会話に必要な瞬発力を鍛えたり、リスニング力やスピーキング力を高める活動を行う。	
		英語Ⅰ		高等学校までの英語力の復習を行い、基本的な英文を読みこなす能力を養成する。また日常生活の場面に出てくる基本的な英語表現を映像から学び、自分の伝えたいことを簡単な英語で表現できるようになることを目標とする。さらに、ビジネスの場面で使用する英語表現について学習することも目標とする。 21世紀に入り、今日の日本では人々が海外でより一層幅広い活躍の場を与えられる時代を迎えた。英語の基礎力を養うためには、基本的な4技能（読み・書き・聞き・話す）の習得が必要であると同時に、コミュニケーションをスムーズに行うためにどのようにしたらよいかについても学習する必要がある。本演習では、コミュニケーション重視の英語学習の観点から、まず自分が伝えたい・述べたいと思うことを簡単な英語で表現することを学習する。また外国の文化に関する基本的な英文を読むことも学習し、さらにビジネス英語についても学習する。学生の積極的な授業参加を期待している。	
		英語Ⅱ		「英語Ⅰ」で学習した内容を基礎として英語でのコミュニケーション能力を養成し、日常生活の場面に出てくる基本的な英語表現を映像から学び、自分の伝えたいことを英語で表現できるようになることを目標とする。また異文化理解の観点から、ハワイについての英文を読むこともテーマにする。さらにビジネスの場面で使用する英語表現について学習することも目標とする。 前期の英語Ⅰに引き続いて、英語でのコミュニケーション能力を高める。英語の基礎力を養うためには、基本的な4技能（読み・書き・聞き・話す）の習得が必要であると同時に、コミュニケーションをスムーズに行うためにどのようにしたらよいかについても学習する必要がある。本演習では、コミュニケーション重視の英語学習の観点から、自分が伝えたい・述べたいと思うことを英語で表現することを学習する。また外国の文化に関する英文を精読・速読することの基礎も学習し、さらにビジネス英語についても引き続き学習する。	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ		未習外国語としてのドイツ語を、コミュニケーションをとるということを目標としながら勉強していく。そのための単語の読み方であり、文法規則であり、表現の練習であることを念頭に置きながら学んでほしい。授業は使用する総合コミュニケーション用教科書に沿って進めていく。発音から入り、基本的な文法規則を修得していく。履修する学生は各単元毎に単語や文法規則などを暗唱してほしい。この授業を基礎としながら2年次終了時にはドイツ語検定４級程度の力をつけることを目標とする。	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ		基本的には「ドイツ語コミュニケーションⅠ」の授業内容の継続となる。ドイツ語コミュニケーションⅠでは、ドイツ語の初等文法の約半分の領域を扱う。「ドイツ語コミュニケーションⅡ」では、残りの半分を学習範囲とする。具体的には前置詞、過去形、話法の助動詞、形容詞、過去形、完了形、関係代名詞、接続法などが対象となる。授業に臨むための準備や復習事項については「ドイツ語コミュニケーションⅠ」と同様となる。　なお原則として、前期の「ドイツ語コミュニケーションⅠ」を履修せずに後期からこの授業を履修することは認めない。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養基礎科目	言葉とコミュニケーション	ドイツ語コミュニケーションⅢ		この授業は、「ドイツ語コミュニケーションⅠ，Ⅱ」を履修した学生を対象として行うものである。ドイツ語を読むこと、書くこと、話すこと、聞くことの4技能をさらに発展させることを狙いとする。具体的には、読むことにおいては、新聞などの簡単なニュースのテクストが理解できること、書くことにおいては客観的な意思や考えの伝達ができること、またある程度のフォーマルな会話ができ、ドイツ語で話される内容の聞き取りができるようになることを目標とする。	
		フランス語コミュニケーションⅠ		フランス語の発音の基本、最も初歩的な文法、そして日常的によく使う語彙や表現を習得し、基本的な文体を用いて簡単な会話ができるようになることを目指す。また世界遺産や食文化などを中心にフランス語圏の文化にふれ、理解を深めることも目標とする。 まず基本となる例文の音を聞き、繰り返し発音してみて、意味を理解し、実際に会話してみることから始める。次にテキストに沿って各課の文法事項、語彙を説明し、習得した文法と語彙の知識をもって会話文を完全に理解した上で、口頭練習をするという流れで授業を進める。各課において知識定着のための練習問題にも取り組む。テキストのフランス語を日本語に訳したり、フランス語でディクテーション（音声を聞いての書き取り）をするという練習も随時取り入れていく。授業では映像や音声教材を用いて、フランス語を正しく聞き取り、発音するのに役立てるとともに、文化紹介の映像を観てフランス語圏文化への理解も深めていく。	
		フランス語コミュニケーションⅡ		前期の「フランス語コミュニケーションⅠ」で習った基礎文法の学習をさらに先に進め、語彙や表現の知識を増やし、基本的な文体を用いた日常会話ができるようになることを目指す。レベル的には、実用フランス語検定の5級レベルに到達することを、さらに後半は4級レベルへの導入をねらう。また世界遺産や食文化などを中心にフランス語圏の文化にふれ、理解を深めることも目標とする。 前期に引き続き、テキスト後半の各課のテキストに沿って、まず重要例文の音を聞き、繰り返し発音してみて、意味を理解し、実際に会話してみることから始める。次に各課の文法事項、語彙を説明し、習得した文法と語彙の知識をもって会話文を完全に理解した上で、口頭練習をするという流れで授業を進める。テキストのフランス語を日本語に訳したり、練習問題を解いたり、音声を聞いての書き取りの練習も随時取り入れていく。授業では映像や音声教材を用い、フランス語を正しく聞き取り、発音するのに役立てるとともに、文化紹介の映像を観てフランス語圏文化への理解も深めていく。	
		フランス語コミュニケーションⅢ		「フランス語コミュニケーションⅢ」は「フランス語コミュニケーションⅠ，Ⅱ」の授業の継続となる。このクラスでは、学生たちはより複雑なフランス語の表現や文法を学び、実際のコミュニケーション状況に対応できるようになる。 授業では、読み書きだけでなく、リスニングとスピーキングのスキルも強化する。フランス文化や歴史についても掘り下げ、言語の背景を理解することで、より深い理解が得られる。 学習の一環として、ディスカッション、プレゼンテーション、グループ活動などを行い、実際のコミュニケーション場面に即した状況での練習を重視する。また、教科書だけでなく、オンラインリソースや映像教材も活用され、多様な学習手法を採用する。 この授業を通じて、学生たちはフランス語を使って自信を持って意見を述べたり、議論したりする能力を身に付け、実際のコミュニケーションシーンで自在に使えるようになることが期待される。また、異文化理解や国際的な視野も拡がり、より広範なコミュニケーションの場で活躍できるようになる。	
		中国語コミュニケーションⅠ		テキスト『やさしい中国語会話』を使用する。最初の4回の授業は『発音編』で中国語の発音の基礎、特にピンインの法則を学ぶ。『本編』の各課は2回の授業で終える予定である。各課の初回は新出単語と文型の意味と用法を解説した後、本文の読みの練習を行い、グループまたは一人ずつで模擬会話練習をする。2回目は本文内容に関するリスニング、補充単語を用いた短文作成を行うほか、中国語を日本語に、日本語を中国語に訳す練習をし、初級レベルの話す・聞く・読む・書くの4つの力を伸ばしていく。	
		中国語コミュニケーションⅡ		『やさしい中国語会話』を使用する。毎課2回の授業で終える。1回目は新出単語と文型の意味と用法を解説した後、読みの練習を行い、グループまたは一人ずつで模擬会話をする。2回目は本文のリスニング、補充単語を用いた置き換え練習等を行うほか、短い日本語を中国語に訳す練習をする。初級レベルの話す・聞く・読む・書くの4つの力を伸ばす。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		中国語コミュニケーションⅢ		大学の「中国語コミュニケーションⅢ」の授業は、中国語のスキルを磨くためのコースである。このコースでは、主に以下の内容を扱う。 文法と表現: このコースでは、やや複雑な文法構造や表現方法に焦点を当てる。複文や複雑な表現を使いこなし、より正確で自然な表現ができるようになる。 テーマ別のディスカッション: 現代の中国社会や文化に関連するトピックについてのディスカッションを行う。例えば、環境問題、国際関係、経済などを取り上げる。 リーディング理解: やや高度なテキストや記事を読み、理解する力を養う。また、それに基づいてディスカッションを行うことで、読解力を向上させる。 プレゼンテーションスキル: 中国語でのプレゼンテーションが要求される場合がある。自分の意見や情報を明確に伝えるためのスキルを磨く。 文化理解: 中国の歴史や文化について理解を深めるための授業が含まれる場合がある。昔ながらの伝統や現代の文化について学ぶ。	
		外国文化事情ＩA		本科目は、2月以降の春休みを利用して、海外での短期語学研修（イギリス、フランス、ドイツ、台湾）に参加し、現地での生活を経験することによって、コミュニケーション・スキルの向上を図ると共に、異文化への理解を深めることを目的とする。プログラム参加終了後は、母語や母国の文化を客観的に眺めることにより、社会の多様性を理解し、自己の成長につなげる。現地で学んだこと、体験したことをできるだけ客観的な視点でまとめ、レポートとして提出する。	
		外国文化事情ＩB		本科目は、2月以降の春休みを利用して、個人で海外での短期語学研修に参加し、現地での生活を経験することによって、コミュニケーション・スキルの向上を図ると共に、異文化への理解を深めることを目的とする。個人の目的によってプログラムを自身で選択することからスタートする。現地で様々な肯定的フィードバック、否定的フィードバックを受けることにより、様々な学びが得られる。プログラム参加終了後は、母語や母国の文化を客観的に眺めることにより、社会の多様性を理解し、自己の成長につなげる。現地で学んだこと、体験したことをできるだけ客観的な視点でまとめ、レポートとして提出する。	
	人文科学	映画学		アメリカ映画のいくつかの作品についてその俳優にフォーカスを置いて授業で学び、そこから異文化について学習し、登場人物から人生観についても学ぶ。名画についてはそこで使用されている英語表現について、映画から英語の名セリフを学ぶことによって学生の英語学習の動機づけを高めることも目標とする。最終的には、好きな映画についての紹介レポートをグループで役割分担して作成できるようになる。 一般に映像の利点はその面白さと分かりやすさにあり、学習と理解が帰納的になる。本講義では、アメリカハリウッド映画の有名な俳優を取り上げて、その人生や活躍の日々について英語の文章を読み学習する。映画スターの知識や英語の基礎的な能力を養うと共に授業では、俳優が出演している映画の何作品かについて、使用されている名セリフ（言語表現）をとおして楽しく学習し、登場人物から人生観についても学ぶ。授業の後半部分では、学生によるグループ学習を行う。選択した映画について、調査・学習してグループ発表を行うので学生同士のインターラクションを大切にして、共通の課題に取り組む姿勢を養う。	
		心理学		心理学は心の問題を扱うもっとも中心的な学問であるが、心をどのように捉えるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心理についての理解を深めることを目指す。そして、次のとおり、心理学における基礎知識やものの考え方を身に付けることを目標とする。 ①心理学の成り立ち及び人の心の生理学的基礎について概説できる。②人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働きを理解し、心理学用語を用いて説明ができる。③発達、社会および臨床心理学の領域について、人の心の基本的な仕組み及び働きを学習し、心理学用語を用いて説明ができる。	
		日本文化論		ことばと文化との間には強いむすびつきがあるということを理解することが目標である。そのために、ことばに関する興味深い事象をいくつか紹介する。後半は、ことばや文化がどのように伝播するのかについて見ていく。『方言学』のもっとも基礎的な概念を理解した上で、身近なことばである方言を学ぶことにどのような意味があるのか、自分なりの答えを探してほしい。 ことばと文化のむすびつきを理解するために、言語学や方言学のもっとも基礎的な考え方について説明する。ことばとはどういうものなのか、方言を研究するということにどのような意味があるのかについて考えていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		歴史学		都市（特に近代都市）を具体例として、これを社会学的に分析する。テーマは、『都市の通時的（歴史的な時間経過過程での）形成と共時的（或る一定の時点での）構造』である。『近代化やグローバル資本主義の展開が都市をどう形成しどう構造化するのか』という問題に対して受講生が説明できるようになるのが目標である。 社会科学の基礎的な理論と概念とを紹介し、上記のテーマについて考える。ほとんど毎回、授業内容に関する作文を課する。映像資料を見る可能性がある。反転授業を実施する。	
		文学		この講義のテーマは、『『文学』を身近なところから考える』である。 『文学』作品は、歴史的、文化的な枠組みのなかから生みだされたものである。登場人物はその時代を生きる存在であり、作品中の環境もその時代を映し出す。したがって作品の理解を深めるには、作品が描かれた歴史的・社会的な背景、同時代の文化の特質を理解することが必要である。 そのうえで、現代につながる問題に関連づけ、履修者自身の見解を自らのことばで表現できる。 大正期から昭和期の短編作品を中心にとりあげる。 文学を身近に感じてもらうための導入として、民話や童話、歌など、私たちの周りにある『文学』に多方面からのアプローチを試みる。	
	社会科学	日本国憲法		憲法は、国家の根本法である。つまり、日本国憲法は、日本という国家の組織や作用および私たちにとって大切な基本的人権について定める法である。この授業では、個々の条文の解説に終始することなく、できる限り学説・判例等を紹介することにより、憲法に関する総合的な知識の習得を目指すとともに、主権の担い手である国民として、現実に発生するあるゆる政治的諸問題に関心を持ち、自分なりの判断ができるよう、人権の存在意義やわが国の政治のあり方について理解を深めることを目標とする。	
		法学（国際法を含む。）		一般に難しいと考えられている法律の基礎的な概念を、具体的な事例を豊富に挙げて、できる限り分かりやすく解説する。 日本国憲法の基本原理である、国民主権主義、基本的人権尊重主義、恒久平和主義について解説する。 日本国憲法が規定する国会と立法権、内閣と行政権、裁判所と司法権について、三権の関係性を含めて解説する。日本国憲法の規定の中でも、とりわけ私たちの生活に直接関わる財政と地方自治について解説する。 最後に、日本国憲法の最高法規性を維持するための憲法保障制度について解説する。	
	自然科学	生物と環境		生物と環境は相互に作用を及ぼし合っている。本講義では動物と環境の関わりについて概説し、進化、資源の循環、自然環境、環境保全について考える。	
		地理学		英語でGeo（地）－Graphy（描）を意味する地理学は、『科学の父』とも言われ、最も起源が旧い分野である。それは、地表上の全てを扱い、理解し、その場所ごとの様子を地図化して描き出し、具体的かつ原始的に真理を追究する。しかし、あまりに裾野が広く、大学で履修する科目としては、今一つ明確なイメージを打ち出しにくい。そんな地理学の入門としては、私たち人間が生活する舞台である自然環境、とりわけ平野を中心とする地形条件について概略的に学ぶことがもっとも適切であろう。その一部は高等学校の地理でも学べるが、この授業では、それらを自然災害やそれへの備えという実社会での一般常識とも関連づけながら、より詳しく説明していく。	
		数学		大学で数学を活用するにあたり必要な高等学校数学の知識を体系的に整理して基礎を固める。単なる公式の暗記ではなく、計算の基本概念を理解して、数学的な見方や考え方を身に付ける。講義と演習を合わせて授業を進める。	
	複合領域	現代社会と福祉		社会福祉のありようを原理的に問うことの意義を理解し、現代社会で諸個人が経験している生活問題を捉える視点や、なぜそうした生活問題が発生しているのかという背景や要因を理解し、その問題に社会的に対応することの必要性を検討する。そして、社会福祉が対象とする生活問題への政策的対応、福祉政策および関連施策に着目し、社会資源を効率的かつ公平に分配する方策のあり方を検討する。	
		岐阜学		日本の中央部に位置する岐阜県は、1876（明治9）年、飛騨国と美濃国を統合して成立した。県域は、『飛山濃水』という言葉に象徴されるように、対照的な自然環境を有し、そのもとで過去から現在へと、個性的な地域社会が営まれてきた。講義では、主に岐阜・西濃の歴史・文化をとりあげ、古文書などの具体的な史料に即して地域の特質を探っていく。	
		芸術論		陶芸作品の鑑賞と民芸活動について学ぶことで、美的活動の意味と広がりについて考察を深めるとともに、演習として陶芸作品のデザイン、土の成形、釉薬による絵付け、焼成、鑑賞などを行う。	
		統計入門		統計データや統計グラフを正しく解釈でき、データ分析に役立てることができることを目標に、統計の基礎的概念を理解し、表計算ソフトExcelを使いながら、記述統計を中心にデータリテラシーについて学ぶ。	
		スポーツトレーニング概論		本講義は、健康の維持・増進や体力の向上を目指し、様々なスポーツトレーニングに関する目的・方法および効果などについて理解を深める。また、スポーツ活動中のけがと病気についても理解を深める。最終的にトレーニングの原理・原則や種類を理解し、トレーニング方法を適切に選択できることを目指す。	
		スポーツと健康		本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身に付けることを目標とする。	
教養科目の		日本文化事情Ⅰ		アニメなどの現代文化及び、浮世絵などの伝統文化について知識を深める。 同時に、自国の文化との比較やさらなる自国文化への知識を深める活動も行う。	
		日本文化事情Ⅱ		歌などの現代文化及び、和太鼓や歌舞伎などの伝統文化について知識を深める。 同時に、自国の文化との比較やさらなる自国文化への知識を深める活動も行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
代替科目	日本社会事情Ⅰ		日本の社会事情（前期は主に住宅と教育）についての知識を深める。 自国との比較やさらなる自国社会への知識を深める活動も行い、得た情報や知識を発表する活動も行う。	
	日本社会事情Ⅱ		日本の社会事情（後期は主にコミュニケーションと防災）についての知識を深める。 自国との比較やさらなる自国社会への知識を深める活動も行い、得た情報や知識を発表する活動も行う。	
言葉とコミュニケーションの代替科目	日本語コミュニケーションⅠ		この授業は講義および演習形式で行う。授業は主にテキストに従って進めていくが、中上級レベルのコミュニケーションスキルを獲得することを目的とするため、基本フレーズや表現の暗記など予習復習が必要である。今回の授業では①許可を求める②依頼する③謝罪する④誘うの4つの場面のコミュニケーションスキルを身に付け、実生活で使用できるようにする。授業内で学習した表現の理解を深めるため、テキスト以外にも音声・映像・その他の資料等を使用したり、ロールプレイなどの活動をとおして、定着を試みる。	
	日本語コミュニケーションⅡ		この授業は講義および演習形式で行う。授業は主にテキストに従って進めていくが、中上級レベルのコミュニケーションスキルを獲得することを目的とするため、基本フレーズや表現の暗記など予習復習が必要である。今回の授業では①申し出をする②助言する③不満を伝える④ほめるの4つの場面のコミュニケーションスキルを身に付け、実生活で使用できるようにする。授業内で学習した表現の理解を深めるため、テキスト以外にも音声・映像・その他の資料等を使用したり、ロールプレイなどの活動をとおして、定着を試みる。	
	日本語Ⅰ		この授業は講義および演習形式で行う。授業は主にテキストに従って進めていくが、習った文法や語彙を使って自分の考えを書いたり、話したりできるようにすることを目的としているため、語彙や文法の暗記など予習復習が必要である。今回の授業では①紹介する②旅行する③異文化に触れる④未来の4つのテーマを学習する。授業内で学習した表現の理解を深めるため、テキスト以外にも音声・映像・その他の資料等を使用したり、会話のロールプレイやプレゼンテーション、作文などの活動をとおして、定着を試みる。	
	日本語Ⅱ		この授業は講義および演習形式で行う。授業は主にテキストに従って進めていくが、習った文法や語彙を使って自分の考えを書いたり、話したりできるようにすることを目的としているため、語彙や文法の暗記など予習復習が必要である。今回の授業では①ミステリー②ベスト・パートナー③食と健康④教育の4つのテーマを学習する。 授業内で学習した表現の理解を深めるため、テキスト以外にも音声・映像・その他の資料等を使用したり、会話のロールプレイやプレゼンテーション、作文などの活動をとおして、定着を試みる。	
	English Communication A	○	この授業では、大学の初年度生を対象とし、実践的な英会話表現と基本的なコミュニケーションスキルの習得に重点を置く。学生が自信を持って英語でコミュニケーションを取れるようになることを目指す。受講生が身近に感じる話題を選び、それに関連する文法や語彙を学ぶことにより、言語スキルを養う。さらに、異文化理解を深め、国際的な視野を広げるために、教材には英語圏の文化が反映された言語使用モデルを含んだ教材を使用する。授業はすべて英語で行う。	主要授業科目
	English Communication B	○	この授業は、大学の初年度生を対象とし、実用的な英会話能力を身に付け、リスニングスキルを強化し、多文化への理解を深めることを目的とする。学生は英語の会話力を活性化し、リスニングスキルを向上させることにより、コミュニケーション技術を習得する。これらのスキルは、TOEICテストのリスニングセクションで高得点を獲得する助けとなり、また日常生活で自信をもって英語を使用する能力を養うことにも寄与する。授業はすべて英語で行う。	主要授業科目
	English Communication C	○	この授業では、「English Communication A」で習得した知識を基に、実践的な英会話表現と基本的なコミュニケーションスキルの習得に重点を置く。ここでの目標は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションを行えるようになることである。学生が関心を持ち易い話題を取り上げ、それに関連する文法や語彙を通じて、言語スキルを養う。さらに、異文化理解を深め、国際的な視野を広げるため、英語圏の文化が反映された実践的な言語使用モデルを含む教材を使用する。授業はすべて英語で行う。	主要授業科目
	English Communication D	○	この授業は、「English Communication B」で習得した知識を基に、さらに実用的な英会話能力の習得、リスニングスキルの強化、そして多文化理解の深化を目指す。英語の会話力を活性化させるとともに、リスニングスキルを向上させることで、効果的なコミュニケーション技術を身に付ける。これらのスキルは、TOEICテストのリスニングセクションで高得点を達成するための助けとなり、同時に日常生活における自信ある英語使用にも貢献する。授業はすべて英語で行う。	主要授業科目
	日本語スキル入門	○	本授業は3つのパートから成る。基本的な考え方は読み手を意識して文章を書くことである。1つ目は、的確な情報伝達をするためには、どのような情報を、どのような順に、どのように展開すればよいか考える。2つ目のパートは、1つ目のパートを踏まえ、人間関係に配慮した日本語表現を使うことを学ぶ。最後のパートは、論理的な文章の書き方について考える。情報の集め方、データの提示方法、自分の意見の述べ方について検討する。授業はグループ活動が中心となる。2～3人のグループで話し合って、よりよい文章にするにはどうすればよいか考える。最終的には、一人ひとりが自分の文書を作成する。	主要授業科目
	ICT活用		授業前半では、プレゼンソフトの機能を活用して目的に合わせたプレゼン資料の作成ができることが目標となる。Microsoft PowerPointの基本操作およびプレゼン資料作成の基本を習得し、他授業およびビジネスで必要なプレゼン資料の作成方法を身に付ける。授業後半では、表計算ソフトの機能を活用して目的に合わせて効率的にデータをまとめ、視覚的な表現ができることが目標となる。表・グラフ作成にMicrosoft Excelの基本操作を習得し表の作成・編集、関数を使った計算処理、グラフの作成の方法を身に付ける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	共通科目	異文化論入門	○	本授業は、異なる文化間の相違点や共通点を理解することを目的とする。学生は、異文化コミュニケーションの基本理論や文化の形成要因を学ぶ。また、異文化間の誤解や偏見の解消に向けたアプローチや解決策についても探求する。多様な文化に対する理解を深めるため、異なる地域や民族の習慣、宗教、芸術、歴史などについての事例研究が行われる。またグループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、異文化間の相互理解を促進するコミュニケーションスキルを養う。この授業を通じて、学生は国際的な視野を広げ、異文化との対話においてより効果的なコミュニケーターとして成長することが期待される。	主要授業科目
		心理学入門	○	心理学は、様々な条件設定やそこでの行動の計量によって人間の在り方に科学的に迫ろうとする社会科学である一方、日常的な活動からの論理立てで人間の心を読み解く、人文学的な側面ももち併せる。より具体的には、日常的な気づきを出発点とした論理により仮説を立て、それを確認するための調査や観察を行い、その結果から論理を精緻化することが繰り返される学問といえる。そうした心理学について、単にその知見を伝えるだけでなく、考え方や研究方法にも触れて、その理解を図る。	主要授業科目
		人間と文化	○	本授業では、人間と文化の相互関係を探求する。異なる文化の起源、発展、変化を理解し、文化が個人と社会に与える影響を探究していく。 （オムニバス方式／15回） （15　長谷川　信／4回） 第1回目：オリエンテーション、第2回目：歴史・文化の記録とIT支援、第14回目：情報技術と人間・文化の理解、第15回目：まとめ （19　四戸　慶介／1回） 第3回目：フランケンシュタイン博士の「怪物」を振り返る （6　熊沢　秀哉／1回） 第4回目：メルヘン(童話)について （16　宮原　淳／1回） 第5回目：ジャーナリズム論 （22　李　嘉／1回） 第6回目：文化の多様性と類似性-相互行為言語学の視点から- （13　長尾　純／1回） 第7回目：言語の中の「私」-日本語と英語の一人称の比較考察- （3　伊佐地　恒久／1回） 第8回目：クリティカルに読みクリティカルに書く （10　テイラー　クレア／1回） 第9回目：What is a third place? /「第三の場」(third place)とは何か？ （2　大塚　容子／1回） 第10回目：日・英語の会話スタイルの違い （20　濱中　誠／1回） 第11回目：文化の境界線を見つけよう！ （21　ウィルキンソン　カール／1回） 第12回目：世界中の若者の社会・政治活動（Youth social and political activism around the world） （11　武井　寛／1回） 第13回目：歴史とは何か	オムニバス方式 主要授業科目
		卒業研究Ⅰ	○	本授業は、各専攻に所属する各基幹教員が担当し、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」、「卒業研究Ⅲ」と継続性をもって展開する。最終目標は、卒業論文やその他の成果物の完成である。各『ゼミ』ではそれぞれ担当教員の設定するテーマに従って各学生が自分の研究分野を決定し、それに関する自らの興味や関心を涵養していく。その後、研究の目的や問いを明確にし、研究の進め方や調査方法を検討して計画を立てる。研究の過程で発生する様々な課題にも対処しながら、研究を進めるためにスキルを養う。 また、「卒業研究Ⅰ」では論文の執筆に必要な論理的な文章力や研究の進行状況を発表するプレゼンテーション技術も身に付ける。	主要授業科目
		卒業研究Ⅱ	○	「卒業研究Ⅱ」の主な目的は、学生が自らの研究テーマを選定し、研究計画を立案・実行する能力を育むことにある。授業では、研究の進め方や方法論、データ収集・分析技術などについて学ぶ。また、過去の研究を調査・分析し、それを踏まえて自らの研究を位置付ける能力も養う。さらに、「卒業研究Ⅱ」では、研究の進捗状況や課題について定期的に指導教員との面談や発表を行う。このようなコミュニケーションを通じて、研究の方向性を修正したり、深化させることができる。学生は独自の視点やアイディアをもとに、自らの興味や専門分野に関連する研究を進めることを求める。そして、それを論理的に整理し、結果をもとに適切な結論を導き出す力を養成する。	主要授業科目
		卒業研究Ⅲ	○	「卒業研究Ⅲ」は、学生が卒業論文を執筆するための主期間となる。この授業は、学生の専門分野における知識や研究能力を深化させるとともに、独自の研究を進める機会を提供する。卒論執筆期は、学生が研究テーマを選定し、関連する文献を調査し、研究計画を立案する重要な段階である。学生は、指導教員のサポートを受けながら、自らの研究を進め、結果をまとめることを求める。また、論文執筆には豊富な時間と努力が必要であり、論理的な構成や適切な表現力が求められる。学生たちは、卒論執筆期を通じて、自身の専門領域における深い理解と研究のスキルを磨き、新たな知見を得ることが期待される。「卒業研究Ⅲ」の成功は、学生の学問的成長とともに、社会への貢献の可能性をも示す重要なステップとなるだろう。	主要授業科目
		データサイエンス（地理空間）		本授業では、企業や自治体で活用が進む地理空間情報の基礎、地理空間データモデルと可視化手法および分析手法について学習する。地理データや空間データとして扱う様々なデータを知り、その特性を理解した後に、統計的に分析するための手法を学ぶ。また、人口や人口密度、交通情報、自然環境情報などの属性情報について、その空間分布の特性を分析する手法と属性間の関係性をモデル化する手法を学ぶ。GISソフトウェア、統計分析ソフトウェアなどを用いて演習を進める。	
		データサイエンス（ことば）		授業は、言語データを中心として、データの収集・管理・分析のための知識と技術を身に付け、データ構造を理解して分析を進められることが目標となる。授業前半では、文章データの収集・管理・分析の目的や利用方法などを学習する。併せてソフトウェア等を用いた演習を行いデータ分析の知識や技術の定着を図る。授業後半では、各々で分析テーマを設定して、データの収集～分析を行い、データ取り扱いの方法や、データ理解の視点などを身に付ける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		情報実務I		授業では、Microsoft Excelを用いて表計算ソフトの活用を学習する。特に卒業研究やビジネスで必要となる高度なデータ管理やデータ処理を取り扱う。複数のワークシートやブックを管理し、蓄積されるデータファイルから必要なデータを抽出して連携するなど手続きを理解して、データ処理のためにセルへ記述する数式や関数の記述方法を学ぶ。同時に、予め準備されている機能から効率的に処理を指定する方法を学ぶ。目的に合わせてデータ管理、データ連携ができるように説明に合わせて演習を進める。	
		情報実務Ⅱ		授業では、Microsoft Excelを用いて表計算ソフトの活用を学習する。特に卒業研究やビジネスで必要となる高度な機能を使用した数式およびマクロの作成を取り扱う。目的に合わせた集計表から詳細な条件付き書式やフィルターを適用してデータを抽出する方法を学ぶ。また、テーブルデータを任意の形式で分類、集計し、さまざまな切り口で分析する方法を習得し、多角的な視点から業務データを分析する方法を身に付ける。目的に合わせてデータ分類、集計ができるように説明に合わせて演習を進める。	
		情報実務Ⅲ		授業では、データ分析の目的や考え方を学習し、表計算ソフトウェアを用いて、データ分析のための知識や技術を身に付け、原因分析や課題発見ができるようになることが目標となる。学生も身近に感じられるビジネス課題を例にして、現状把握から始めて、課題の設定、データの収集、データの比較、データ着目の方法からフィードバックまでを身に付ける。またMicrosoft Excelに用意されているデータ分析機能およびアドインで追加できる分析機能を活用して制約条件付き方程式を解く手順を学習する。	
		情報実務Ⅳ		授業では、データで根拠を示して主張を展開し、文書にまとめることが目標となる。自分の興味関心をきっかけに様々な情報を収集・整理して、課題を設定することから始め、対象の要素を数値で捉えて、背景や理由を推測する手順や視点を身に付ける。必要な情報はインターネットを活用して、記事や論説、論文、統計データを入手する。後半では、頁数が大きな文書の体裁を整える編集方法を学習する。データ分析にはMicrosoft Excel、文書作成にはMicrosoft Wordを使用する。	
		地域創生探究Ⅰ		各専攻の視点（外部講師の招聘を想定）から、岐阜地域の諸課題への取組の実例や成果を紹介する。それに基づき、クラス全体のディスカッションをとおして数個の研究テーマを設定する。テーマへの興味関心を基に、専攻を越えたグループを形成し、グループ内の協働によるフィールドワーク研究計画の立案、実施、発表を通じて、課題発見から調査報告までの一連のプロセスをロールプレイする。 （オムニバス方式） （16　宮原　淳／3回） 地域出身の作家や岐阜を舞台にした映像作品など現代の人文遺産を知り、観光、広報など地域の課題解決に役立てる方策を探求する。 （18　齋藤　正人／3回） 美濃焼、美濃和紙など地域の文化遺産を知り、人口減など地域の課題解決に役立てる方策を探求する。 （24　木村　美幸／3回） 地域の歴史遺産を知り、現代的な課題解決に役立てる方策を探求する。 （16　宮原　淳・18　齋藤　正人・24　木村　美幸／6回）（共同） オリエンテーション、フィールドワークの指導及び調査報告へのフィードバック・評価	オムニバス方式 共同（一部）
		地域創生探究Ⅱ		「地域創生探究Ⅰ」においてグループで得た成果を参考に、履修者個々で研究テーマを設定し、研究計画の立案、実施、発表をとおして、課題発見から調査報告までの一連のプロセスを実践する。 （オムニバス方式） （16　宮原　淳／3回） 地域出身の作家や岐阜を舞台にした映像作品など現代の人文遺産を知り、観光、広報など地域の課題解決に役立てる方策を探求する。 （18　齋藤　正人／3回） 美濃焼、美濃和紙など地域の文化遺産を知り、人口減など地域の課題解決に役立てる方策を探求する。 （24　木村　美幸／3回） 地域の歴史遺産を知り、現代的な課題解決に役立てる方策を探求する。 （16　宮原　淳・18　齋藤　正人・24　木村　美幸／6回）（共同） オリエンテーション、フィールドワークの指導及び調査報告へのフィードバック・評価	オムニバス方式 共同（一部）
		インターンシップ(講義)		インターンシップの意義、目的を理解する。その上で、業界や企業理解を深め、面談を重ね、実習先を選定していく。	
		インターンシップ(演習)		実習先が決まると、実習に向けての準備（マナー、履歴書提出）を進めていく。そして実習期間中の目標を明確化し、『働く』ことへの意識を高めていく。各回、ゲストスピーカーによる講演やワークショップなどを通してインターンシップの準備を進める。	
		エアライン講座Ⅰ		この講座では、航空産業の基本的な概念と業界全体の機能について学ぶ。まず、航空業界の歴史や発展に関する概要から始まり、現代の航空産業の主要なプレーヤーや市場の動向について説明を行う。さらに、航空機の種類や構造、航空運送の仕組み、航空会社の運営についての基本的な知識を習得する。講座の中では、航空業界におけるキャリアに焦点を当て、学生たちに航空会社や関連企業での就職に向けた準備をサポートする。業界で求められるスキルや資格、そして航空業界特有の職種に関する情報も提供される。さらに、航空業界の持続可能性や環境への影響についても取り上げ、未来の航空業界における課題や展望についても考察する。 この講座を通じて、学生たちは航空業界に関する幅広い知識を身に付け、将来のキャリア選択に向けての方向性を見出すことが期待される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		エアライン講座Ⅱ		本授業は、「エアライン講座Ⅰ」の内容を発展させたものである。航空業界の最新の動向や将来展望、業界内のキャリアパスについて理解を深めることを目的としている。航空会社や関連企業の人材ニーズに合わせた自己分析やキャリアプランの策定、採用選考のポイントなどにも重点を置き、学生たちが将来の就職活動に向けて具体的な準備を進めることを目指す。産業のグローバル化、環境への配慮、テクノロジーの進化などのトピックにも触れ、グローバルな視野を持った航空業界への理解を促進する。また、航空業界での実務経験を持つ講師陣による貴重な体験談やキャリアアドバイスも行われ、将来航空業界で活躍したい学生にとって非常に有益な講座となっている。	
		キャリアデザインⅠ		キャリアデザインに必要な自己理解、職業理解、現在社会への理解を深めることで、主体的に職業選択ができる土台作りをする。グループワークなどをとおして、円滑な人間関係形成、自分の意見を伝えるスキルを学ぶ。	
		キャリアデザインⅡ		企業からミッション（課題）を提供していただき、グループワークをとおしてミッション遂行の方策を検討する過程で理解力・想像力・創造力に基づく課題解決を体験する。また、各グループ毎に遂行策のプレゼンテーションを行い、表現力やコミュニケーション力を養う。	
		キャリアデザインⅢ		はじめに、日本の現状と世界との関わりの必要性について確認した上で、世界経済や企業を考える上で重要なテーマになる『為替』などの基礎的な経済知識を確認し、人口減少が始まった日本が、今後、経済面や生活面でどう変わっていくのかを具体的に考えていく。そして、資源に恵まれない日本が成長していくために必要不可欠な『グローバル化』について、人文学部と国際社会の重要性を考察していく。	
		キャリアデザインⅣ		労働法をベースに、雇用形態や賃金など、入社するまでに知っておくべき働くルールを学ぶ。	
		キャリアデザインⅤ		就活・就業に向け、働く目的や職業・企業選択の視点を養い、自らの進むべき道や将来像を描く。自己分析を通じて自身の強み(性格、能力)や自身の価値観を明確にし、自己PR・志望動機を練り上げる。履歴書、エントリーシート等の自分を売り込む書類の書き方の習得など実践力を身に付ける・就活のオンライン化に伴うWebツールの活用、メール文など就活基礎能力を身に付ける。	
		キャリアデザインⅥ		主要な業界について理解を深めることにより、未知の業界への関心作りと、自身の志望業界と他業界とのつながりを理解する。また、業界理解や仕事理解が自己PRや志望動機にどのように繋がるのかを理解し、各自の就職活動の軸を形成する。業界研究、企業研究の実践のため、個人では、企業研究シートの提出、グループでは、企業研究発表を実施する。	
		社会人基礎力養成		①実務家である講師の視点から働く上で必要な能力を解説し、それを基に自分自身の具体的なキャリアを考えていく。②残りの大学生活をどう過ごすべきかを考察することで、大学卒業後のキャリアデザインを描くための土台を形成する。③実務に基づいた個人ワークやグループワークに積極的に取り組むことで、働く上で必要な実務能力について理解することができる。④新卒採用時に求められる能力要素を理解し、ESや面接時における効果的なアピール方法を学ぶことができる。	
		英語リスニングⅠ	○	授業はオーディオブックと英語学習サイトEnglish Central等を用いる。6分間から10分間程度の長い英語のストーリーを積極的に聞き取るリスニング力の育成を目指す。クラスの他の学習者の英語を含めた多様な英語話者の英語に慣れ親しませる。ストーリーで触れた語句や表現を他のコンテクストでも使用できるようにする。発音とリズムに焦点を当てながら、リスニングと同時にスピーキング活動も行い、英語の語彙と表現のパターンを身に付けることで、リスニング力を一層伸長する。	主要授業科目
		英語リスニングⅡ	○	授業はオーディオブックと英語学習サイトEnglish Central等を用いる。「英語リスニングⅠ」で身に付けたリスニング力をもとに、6分間から10分程度の長い英語のストーリーを積極的に聞き取るリスニング力の一層の育成を目指す。クラスの他の学習者の英語を含めた多様な英語話者の英語に慣れ親しませる。ストーリーで触れた語句や表現を他のコンテクストでも使用できるようにする。発音とリズムに焦点を当てながら、リスニングと同時にスピーキング活動も行い、英語の語彙と表現のパターンを身に付けることで、リスニング力を一層伸長する。	主要授業科目
		英語リーディングⅠ	○	授業はテキストを用いる。英語リーディング力の育成、具体的にはパラグラフリーディングのスキルを習得し、必要な情報を素早く読み取ることができることを目指す。そのために、語彙力の強化、文法の要点の復習、スキャニングやスキミングのような異なった読解スキルの指導を行う。学生は毎週、指定された記事を読み、まず個人でその後グループで内容に関する質問に解答し、内容理解を進める。授業過程は、学生のレベルに合わせて調整する。	主要授業科目
		英語リーディングⅡ	○	授業はテキストを用いる。「英語リーディングⅠ」で身に付けた力をもとに、英語リーディング力の育成、具体的にはパラグラフリーディングのスキルの習得をさらに進め、必要な情報を一層素早く読み取ることができることを目指す。そのために、語彙力の強化、文法の要点の復習、スキャニングやスキミングのような異なった読解スキルの指導を行う。学生は毎週、指定された記事を読み、まず個人でその後グループで内容に関する質問に解答し、内容理解を進める。授業過程は、学生のレベルに合わせて調整する。	主要授業科目
		英語リーディングⅢ		授業はテキストを用いる。「英語リーディングⅠ,Ⅱ」で身に付けた力をもとに、英語リーディング力の育成、具体的にはパラグラフリーディングのスキルに習熟し、必要な情報を一層素早く読み取ることができることを目指す。そのために、語彙力の強化、文法の要点の復習、スキャニングやスキミングのような異なった読解スキルの指導を行う。学生は毎週、指定された記事を読み、まず個人でその後グループで内容に関する質問に解答し、内容理解を進める。授業過程は、学生のレベルに合わせて調整する。	
		英語リーディングⅣ		授業はテキストを用いる。「英語リーディングⅠ,Ⅱ,Ⅲ」で身に付けた力をもとに、英語リーディング力の育成、具体的にはパラグラフリーディングのスキルにさらに習熟し、必要な情報を一層素早く読み取ることができることを目指す。そのために、語彙力の強化、文法の要点の復習、スキャニングやスキミングのような異なった読解スキルの指導を行う。学生は毎週、指定された記事を読み、まず個人でその後グループで内容に関する質問に解答し、内容理解を進める。授業過程は、学生のレベルに合わせて調整する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		英語ライティングⅠ	○	この授業では、テキストを用いて、メール、パンフレット、ウェブページなど実践的な英文の書き方を学ぶ。また、英文の読み手と書く目的を意識して書く練習をする。まずはモデルとなる英文を参照し、言語的な要素に注目しつつモデルの英文を分析する。次に自分が書く文書のためにブレーンストーミングをする。何度かドラフトを作成してパソコンをつかって授業中に完成版を提出する。最後に学びを振り返る。これらの活動は個人活動とグループ活動を組み合わせて行い、英文を書く過程を意識させることを心掛ける。	主要授業科目
		英語ライティングⅡ	○	この授業では、「英語ライティングⅠ」から引き続き、 テキストを用いて、メール、パンフレット、ウェブページなど実践的な英文の書き方を学ぶ。また、英文の読み手と書く目的を意識して書く練習をする。まずはモデルとなる英文を参照し、言語的な要素に注目しつつモデルの英文を分析する。次に自分が書く文書のためにブレーンストーミングをする。何度かドラフトを作成してパソコンを使って授業中に完成版を提出する。最後に学びを振り返る。これらの活動は個人活動とグループ活動を組み合わせて行い、英文を書く過程を意識させることを心掛ける。	主要授業科目
		Academic WritingⅠ		この授業は中級レベルのライティングクラスである。テキストを使用する。社会で役立つアカデミックライティングのスキルを身に付けることを目標とする。数パラグラフのいくつかのタイプの英文を書く活動を行う。学生はアカデミック語彙リストの語彙を学び、中心となる文法の使い方を復習する。モデルをとおして、いくつかのタイプのアカデミックな英文の構造を学ぶ。そして、これらの知識とスキルを使って、授業中にエッセイを完成する。英文はPCに入力し、フォーマットを整える。	
		Academic WritingⅡ		この授業は中級レベルのライティングクラスである。テキストを使用する。社会で役立つアカデミックライティングのスキルを身に付けることを目標とする。数パラグラフのいくつかのタイプの英文を書く活動を行う。「Academic Writing I」から引き続いて、学生はアカデミック語彙リストの語彙をさらに学び、いくつかさらに中心となる文法の使い方を復習する。モデルをとおして、いくつかのタイプのアカデミックな英文の構造を学ぶ。そして、これらの知識とスキルを使って、授業中にエッセイを完成する。英文はPCに入力し、フォーマットを整える。	
		英語音声基礎	○	国際共通語としての英語の使用のために必要な英語の音声・音韻の仕組みについて学習する。英語で使われる音の体系、調音の方法、音の変化のメカニズムを理解し、自然な英語の発音を身に付ける。特に、英語でコミュニケーションを行う上で最低限必要とされる、英語の音声的運用能力―英語の分節音（母音、子音）そして、英語の超分節音（リズム、イントネーション）の運用能力―に焦点を当てる。同時に、リスニングの際に必要とされる音連鎖や音の変化の規則についても学習する。テキストを用いた講義に加えて、映画やポップソングなどの音声教材を併用する。	主要授業科目
		英文法Ⅰ	○	この授業では、テキストを用いて、英語の時制や冠詞など、日本人学習者が英語を使う際によく見られる英文法のミスや誤解に焦点を当てる。これらの間違いを踏み台として、英語特有のルールや用法、日本語と英語の違いを学び、自己表現のための効果的な英文法の習得を目指す。授業と並行して、授業外では『マーフィーのケンブリッジ英文法』を使用して高等学校英語レベルの基礎的な英文法を体系的に学ぶ。英語コミュニケーション力の土台となる英文法を身に付けることを目指す。	主要授業科目
		英文法Ⅱ	○	前期の「英文法Ⅰ」に引き続き、テキストを用いて、英語の時制や冠詞など、日本人学習者が英語を使う際によく見られる英文法のミスや誤解に焦点を当てる。これらの間違いを踏み台として、英語特有のルールや用法、日本語と英語の違いを学び、自己表現のための効果的な英文法の習得を目指す。授業と並行して、授業外では『マーフィーのケンブリッジ英文法』を使用して高等学校英語レベルの基礎的な英文法を体系的に学ぶ。英語コミュニケーション力の土台となる英文法を身に付けることを目指す。	主要授業科目
		English Communication E		これは「English Communication A,C」を発展させ、中級レベル(CEFR B1)の実用的なリスニング力とスピーキング力を身に付ける授業である。語彙と文法パターン修得、同時に発音と流ちょうな日常的なコミュニケーションのための方略を身に付けることを目標とする。授業の大部分はロールプレイやストーリーテリング、ディスカッション等のペア及びグループ活動を行う。授業は、テキストを用いて、20人未満の少人数で、すべて英語で進められる。	
		English Communication TE		これは、「English Communication A,C」を発展させ、中級レベル(CEFR B1)の実用的なリスニング力とスピーキング力を身に付ける授業である。特に英語科教員希望者を対象としたクラスである。語彙と文法パターン修得、同時に発音と流ちょうな日常的なコミュニケーションのための方略を身に付けることを目標とする。授業の大部分はロールプレイやストーリーテリング、ディスカッション等のペア及びグループ活動を行う。授業は、テキストを用いて、20人未満の少人数で、すべて英語で進められる。	
		English Communication F		これは「English Communication A, C, E」を発展させ、中級レベル(CEFR B1)の実用的なリスニング力とスピーキング力を身に付ける授業である。語彙と文法パターン修得、同時に発音と流ちょうな日常的なコミュニケーションのための方略を身に付けることを目標とする。授業の大部分はロールプレイやストーリーテリング、ディスカッション等のペア及びグループ活動を行う。授業は、テキストを用いて、20人未満の少人数で、すべて英語で進める。	
		English Communication TF		これは、「English Communication A, C, TE」を発展させ、中級レベル(CEFR B1)の実用的なリスニング力とスピーキング力を身に付ける授業である。特に英語科教員希望者を対象としたクラスである。語彙と文法パターン修得、同時に発音と流ちょうな日常的なコミュニケーションのための方略を身に付けることを目標とする。授業の大部分はロールプレイやストーリーテリング、ディスカッション等のペア及びグループ活動を行う。授業は、テキストを用いて、20人未満の少人数で、すべて英語で進められる。	
		Reading and Discussion Ⅰ		この授業は、毎時間、テキストにより提示されたトピックについて英文を読み、様々な話題や社会的問題について知識を身に付け、問題意識を持つよう促す。そして、読んだ英文のトピックについて、意見を構築し、ペアやグループでディスカッションすることで、ディスカッションのスキルを身に付ける。これまでに学び、修得した英語を活用することを求められる。ディスカッションは、意見を根拠とともに論理的に述べること、相手の意見をクリティカルに検討し、自分の意見を明確に述べることが期待される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		Reading and Discussion Ⅱ		この授業は、「Reading and Discussion Ⅰ」に引き続き、毎時間、テキストにより提示されたトピックについて英文を読み、様々な話題や社会的問題について知識を身に付け、問題意識を持つよう促す。そして、読んだ英文のトピックについて、意見を構築し、ペアやグループでディスカッションすることで、ディスカッションのスキルを身に付ける。これまでに学び、修得した英語を活用することを求められる。ディスカッションは、意見を根拠とともに論理的に述べること、相手の意見をクリティカルに検討し、自分の意見を明確に述べることが期待される。	
		Research and Presentation Ⅰ		この授業では、Power PointやKeynoteのようなプレゼンテーションソフトを利用して、聴衆の前で自信をもって発表ができることを目指す。効果的なスライドの作り方、グラフや図のような視覚的な提示方法をテキストを用いながら、実践的に身に付ける。学生は姿勢やジェスチャー、スライドのデザイン、声の抑揚等についても学ぶ。4回のクラスでの評価発表で、身に付けたことを実際のプレゼンテーションで発揮する。相互フィードバックにより、学生同士で学びを進める。	
		Research and Presentation Ⅱ		この授業では、「Research and Presentation Ⅰ」で学んだことをもとに、Power PointやKeynoteのようなプレゼンテーションソフトを利用して、聴衆の前で自信をもって、さらに長い発表ができることを目指す。効果的なスライドの作り方、グラフや図のような視覚的な提示方法をDVD教材を用いながら、実践的に身に付ける。学生は姿勢やジェスチャー、スライドのデザイン、声の抑揚等についても学ぶ。4回のクラスでの評価発表で、身に付けたことを実際のプレゼンテーションで発揮する。相互フィードバックにより、学生同士で学びを進める。	
		英語リーディングⅤ		現代の世界で問題になっているテーマを取り上げたテキストを用いながら、英語リーディング力とテーマに関する知識を身に付け、問題点について考察する思考力を向上させることを目的とする。受講生は事前にわからない単語を調べ、本文を読んで内容の概要を把握しておく。授業では、文字通りに内容を理解するのみではなく、他の角度からの内容の検討や主張の基になっている事実や根拠について妥当なのかどうか批判的に検討する。クリティカルリーディングができることを目指す。ペアやグループによるディスカッションの機会を設ける。	
		英語リーディングⅥ		「英語リーディングⅤ」に引き続き、現代の世界で問題になっているテーマを取り上げたテキストを用いながら、英語リーディング力とテーマに関する知識を身に付け、問題点について考察する思考力を向上させることを目的とする。受講生は事前にわからない単語を調べ、本文を読んで内容の概要を把握しておく。授業では、文字通りに内容を理解するのみではなく、他の角度からの内容の検討や主張の基になっている事実や根拠について妥当なのかどうか批判的に検討する。クリティカルリーディングができることを目指す。ペアやグループによるディスカッションの機会を設ける。	
		Academic Writing Ⅲ		これは中・上級レベルの英語ライティングクラスである。アカデミックライティングのスキルを伸ばすことを目標とする。受講生は、数パラグラフから構成されるエッセーを記述し、卒業論文やIELTS等の試験で高いスコアを取得することができるようにする。受講生はアカデミック語彙リストから語彙を学び、重要な文法パターンを復習する。数タイプのアカデミックライティングの構造をモデル文を参考に学ぶ。学んだスキルを用いて、初めはグループで協働して、続いて個人でエッセーを記述する。授業時間内にPCで作成する。	
		Academic Writing Ⅳ		これは、「Academic Writing Ⅲ」に引き続き、中・上級レベルの英語ライティングクラスである。アカデミックライティングのスキルをを伸ばすことを目標とする。受講生は、数パラグラフから構成されるエッセーを記述し、卒業論文やIELTS等の試験で高いスコアを取得することができるようにする。受講生はアカデミック語彙リストから語彙を学び、重要な文法パターンを復習する。数タイプのアカデミックライティングの構造をモデル文を参考に学ぶ。学んだスキルを用いて、初めはグループで協働して、続いて個人でエッセーを記述する。授業時間内にPCで作成する。	
		英文法Ⅲ		「英文法Ⅰ,Ⅱ」で学習した日本人学習者が英語を使う際に必要と考えられる初中級レベルの英文法を、単なる知識ではなく4技能5領域の英語コミュニケーションを支えるレベルまで高めることを目標とする。1年次の学習だけでは、表面的な理解にとどまっている文法事項も少なからずあると考えられる。1年次で学び、英語スキル授業において使用してきた文法事項を復習し、可能であればさらに上級レベルの内容も指導し、適切に運用できるようにする。英語コミュニケーション力を支える英文法を身に付けることを目指す。テキストを使用する。	
		英語学Ⅰ	○	この授業は英語学への導入授業であり、英語が現代世界のなかで果たしている役割や、地球上に広がっている英語の変種について学ぶ。また、言語をとりまく人間関係・社会との言語の関係に目を向け、英語の音声の側面を重点的に概観し、英語という言語がどういう仕組みを持っているのか、どういう規則によって成立しているのか、またそれがどのようにして運用されているのかを扱う。『世界のなかの英語』、『音声学』、『音韻論』、『語用論』の4つの題目について考察する。そこから英語という言語の仕組みと規則性を知り、英語学の基本的な概念に触れる。授業は基本的にテキストによる講義形式で行われる。	主要授業科目
		English Linguistics Ⅰ	○	この授業は英語学への導入授業であり、英語が現代世界のなかで果たしている役割や、地球上に広がっている英語の変種について学ぶ。また、言語をとりまく人間関係・社会との言語の関係に目を向け、英語の音声の側面を重点的に概観し、英語という言語がどういう仕組みを持っているのか、どういう規則によって成立しているのか、またそれがどのようにして運用されているのかを扱う。『世界のなかの英語』、『音声学』、『音韻論』、『語用論』の1つの題目について考察する。そこから英語という言語の仕組みと規則性を知り、英語学の基本的な概念に触れる。授業は基本的に講義形式で行われるが、授業への積極的な参加を期待する。授業はすべて英語で進められるAll Englishクラスである。	主要授業科目
		英語学Ⅱ	○	「英語学Ⅰ」の学習を基に、英語学の基本理念をさらに修得することをとおして、その知識を英語の運用や第二言語教育指導に活かすことができるようになることを目標とする。この授業では、英語の歴史、現代英語に関する『形態論』、『統語論』、『意味論』の分野を扱う。まず、英語学の分野の中から、英語の成り立ち、英語の単語の構成、英語の文の構成、語や文の伝達する意味についての側面から英語を観察していく。言語を取り巻く環境や人間のものの考え方がどのように言語を形作り影響を与えているのかを知ることが、英語を使ってコミュニケーションをする際に補助となる知識や考え方になる。教員が用意した資料により、講義を進める。	主要授業科目

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	英語英米文化専攻専門科目	English Linguistics Ⅱ	○	「英語学Ⅰ」の学習を基に、英語学の基本理念をさらに修得することをとおして、その知識を英語の運用や第二言語教育指導に活かすことができるようになることを目標とする。この授業では、英語の歴史、現代英語に関する『形態論』、『統語論』、『意味論』の分野を扱う。まず、英語学の分野の中から、英語の成り立ち、英語の単語の構成、英語の文の構成、語や文の伝達する意味についての側面から英語を観察していく。言語を取り巻く環境や人間のものの考え方がどのように言語を形作り影響を与えているのかを知ることが、英語を使ってコミュニケーションをする際に補助となる知識や考え方になる。教員が用意した資料により、講義を進める。授業はすべて英語で進められるAll Englishクラスである。	主要授業科目
		英語学Ⅲ		この授業は、「英語学Ⅰ,Ⅱ」で学んだことを踏まえ、音声学、音韻論に焦点を当て、英語の音声構造を学ぶ。演習形式で進め、英語の音声構造を理解するだけでなく、実際に発音できるようにすることを目指す。始めに日本語にない英語の子音と母音を扱う。英語における音素と異音、子音結合、リズム原理と文法形式、語強勢、文強勢などを意識して英語を発することができるようにする。個々の発音を取り上げるだけではなく、海外ドラマを利用して、学習した音声の実際の会話での使用に触れさせる。テキストとドラマの動画を使用する。	
		英語学Ⅳ		この授業は、「英語学Ⅰ,Ⅱ」で学習した内容を踏まえて、X-bar理論の理解を基本に統語論を中心に英語に対する理解を深める。言語は使用される環境、コミュニケーションに関わる人間関係、使用する文の構造、語彙の選択など様々な事柄が関わっている。このような考え方のもとに英語をさらに分析して実践的な運用力に結びつける英語の知識を身に付けることを目指す。日本語との比較も用いながら、様々な構文を分析する、英語の文の構造とコミュニケーションとの関わりについても扱う。テキストを使用する。	
		イギリス文化研究Ⅰ	○	『イギリス』とは何か、という基本的な知識の整理に始まり、イギリスの歴史と文化、現代の姿を理解するためにテキストの各項目に沿って講義を進めていく。トピックは、パブ文化、多民族性、教育、自然等である。最終回に行われる理解度確認テストのほかに、毎回小テストを行い、授業内容を自分でまとめた小レポートの提出をする。コースの最後に任意の項目についてのレポートを課すので学生は自主的にテキストを読み、情報を整理し分析を試みることが求められる。	主要授業科目
		British Studies Ⅰ	○	この授業は CLILによって行われ、受講生がイギリスに関する知識・理解と英語力を同時に伸長することを目指す。受講生がイギリスの生活と文化について知ると同時に、アカデミックな英語スキルを身に付けることを目的とする。講義とビデオにより、イギリスの歴史、伝統文化、現代の人々の生活と考え方等について学び、学んだ内容についてペアでディスカッションさせる。受講生は、あらかじめ、語彙学習アプリ Quizletにより語彙を学んでおくことを求められる。 最後に関連した内容の読解資料やビデオを必要に応じて提示する。	主要授業科目
		アメリカ文化研究Ⅰ	○	この授業では植民地時代から19世紀末までのアメリカ合衆国に焦点を当て、アメリカの社会と文化に対する基礎的な知識を身に付けることを目的とする。アメリカの主要な社会問題や文化的事象を取り上げながら検討してく。授業では人種、ジェンダー、エスニシティ、階級といった諸要素が複雑に交錯しながら展開されてきたアメリカの歴史をとおして、アメリカの社会と文化に対する理解を深めたい。受講生がアメリカの社会や文化を学ぶことでアメリカに興味を持ち、多様な問題意識を育みながら、アメリカを見る目を養っていくことが望まれる。授業は講義形式で行い、リーディング・アサイメントと授業プリントを配付する。	主要授業科目
		American Studies Ⅰ	○	この授業では、アメリカ人とアメリカ合衆国の歴史、文化、地理について幅広い知識を身に付けると同時に、英語リーディングとリスニング力を強化することを目的とする。テキスト及び詩、歌、スピーチ、映画等からの題材を扱い、講義と題材に関する課題に取り組ませる。受講生は、事前に2つの英文に目を通し、内容を口頭で報告できるようしておくことを求められる。受講生は、課題や簡単なリサーチの発表、又はスピーチ、詩、歌の暗唱を行う。授業はすべて英語で進められる。	主要授業科目
		英語文学ⅠA	○	英語で書かれた文学に接することで英語の持つ力や深さ、面白さを味わうことを目的とする。イギリス文学を中心として、文学の背景となる文化や歴史を知り、それが文学に面白さや豊かさを与えていることを理解し、それを実際に読んで体験する。本授業では、この授業では男性主人公の成長と旅というテーマの関係性に焦点を当て、いくつかの小説を読んでいく。受講者は毎回、作品を読み、出版当時の文化・社会の状況（ジェンダー・階級・人種問題・帝国主義・植民地主義などを含む）を考慮しながら、その文学表現を吟味する。紹介した作品から1作品を選び、レポートを作成する。	主要授業科目
		英語文学ⅠB	○	英語で書かれた文学作品にふれることで、英語の理解力を高めると同時に、文学的な文章の読み方を身に付けること、また、そこに描かれている人物・時代・地域についての知識と想像力を高めることを目的とする。本授業では主にアメリカの長編小説作品を扱う。まず、作品の文化的背景やアウトラインを導入する。続いて、丁寧に読解し、導入で扱った内容について理解を深める。最後に作品全体の社会背景との関係やアメリカ文学の歴史上の位置づけ等を理解させる。毎時間コメントシートの提出を求める。	主要授業科目
		英語文学ⅡA	○	英語で書かれた文学に接することで英語の持つ力や深さ、面白さを味わうことを目的とする。イギリス文学を中心として、文学の背景となる文化や歴史を知り、それが文学に面白さや豊かさを与えていることを理解し、それを実際に読んで体験する。この授業では女性登場人物の描かれ方に焦点を当て、いくつかの小説を読んでいく。受講者は毎回、作品を読み、出版当時の文化・社会の状況（ジェンダー・階級・人種問題・帝国主義・植民地主義などを含む）を考慮しながら、その文学表現を吟味する。紹介した作品から1作品を選び、レポートを作成する。	主要授業科目
		英語文学ⅡB	○	英語で書かれた文学作品にふれることで、英語の理解力を高めると同時に、文学的な文章の読み方を身に付けること、また、そこに描かれている人物・時代・地域についての知識と想像力を高めることを目的とする。この授業では主にアメリカの短めの小説を扱い、英語の文章を一定量読むことに慣れるようにする。まず、作品の文化的背景やアウトラインを導入する。続いて、丁寧に読解し、導入で扱った内容について理解を深める。次に、作品のテーマや登場人物について議論する。最後に、議論の内容を踏まえながら、作品全体の社会背景との関係やアメリカ文学の歴史上の位置づけ等を理解させる。毎時間リーディング・ジャーナルの提出を求める。	主要授業科目
		英米文学研究ⅠA		本授業では、イギリスの文学作品を原書で講読する。主に20世紀前半のイギリス（またはコモンウェルス）の物語や詩等を原書で講読する。英語の評論、記事、そしてエッセイとは異なる形式を持つ物語や詩などの表現を味わい、その特徴を理解する。また、原書で作品に触れながら、辞書的な英語の意味理解だけでなく歴史・文化・社会・政治的背景を踏まえた表現の機微を捉えながら作品を解釈していくことを目指す。一方的な講義ではなく、受講生とのインタラクションを重視して進める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		英米文学研究ＩB		本授業では、アメリカの文学作品を原書で講読する。主に19世紀から20世紀前半のアメリカの小説や詩等を原書で講読する。英語の評論、記事、そしてエッセイとは異なる形式を持つ小説や詩などの表現を味わい、その特徴を理解する。また、原書で作品に触れながら、辞書的な英語の意味理解だけでなく歴史・文化・社会・政治的背景を踏まえた表現の機微を捉えながら作品を解釈していくことを目指す。一方的な講義ではなく、受講生とのインタラクションを重視して進める。	
		英米文学研究ⅡA		本授業では、イギリスの文学作品を原書で講読する。主に現代イギリス（またはコモンウェルス）の物語や詩等を原書で講読する。英語の評論、記事、そしてエッセイとは異なる形式を持つ物語や詩などの表現を味わい、その特徴を理解する。また、原書で作品に触れながら、辞書的な英語の意味理解だけでなく歴史・文化・社会・政治的背景を踏まえた表現の機微を捉えながら作品を解釈していくことを目指す。一方的な講義ではなく、受講生とのインタラクションを重視して進める。	
		英米文学研究ⅡB		本授業では、アメリカの文学作品を原書で講読する。主に現代アメリカの小説や詩等を原書で講読する。英語の評論、記事、そしてエッセイとは異なる形式を持つ小説や詩などの表現を味わい、その特徴を理解する。また、原書で作品に触れながら、辞書的な英語の意味理解だけでなく歴史・文化・社会・政治的背景を踏まえた表現の機微を捉えながら作品を解釈していくことを目指す。一方的な講義ではなく、受講生とのインタラクションを重視して進める。	
		イギリス文化研究Ⅱ	○	この授業は、「イギリス研究I」、「British Studies I」で学んだ内容を踏まえ、イギリスの歴史・文化についてより深い知識を習得し、考察することを目的とする。「イギリス研究I」で学んだ基本的な知識の整理に始まり、イギリスの歴史と文化、現代の姿を理解するために各項目に沿って講義を進めていく。最終回に行われる理解度確認テストのほかに、毎回小テスト、授業内容を確認するクイズを行う。コースの最後に任意の項目についてのレポートを課すので学生は自主的に資料を読み、情報を整理し分析を試みることが求められる。	主要授業科目
		アメリカ文化研究Ⅱ	○	この授業では、20世紀から現代までのアメリカ合衆国に焦点を当て、アメリカの社会と文化に対する基礎的な知識を身に付けることを目的とする。アメリカの主要な社会問題や文化的事象を取り上げながら検討していく。授業では人種、ジェンダー、エスニシティ、階級といった諸要素が複雑に交錯しながら展開されてきたアメリカの歴史をとおして、アメリカの社会と文化に対する理解を深めたい。受講生がアメリカの社会や文化を学ぶことで多様な問題意識を育みながら、アメリカを見る目を養っていくことが望まれる。授業は講義形式で行い、リーディング・アサインメントと授業プリントを配付する。また、授業の中で随時参考文献や映画なども紹介していく。	主要授業科目
		British Studies Ⅱ	○	この授業は CLILによって行われ、受講生がイギリスに関する知識・理解とアカデミックな英語スキルを同時に伸長することを目指す。「British Studies I」に引き続き、講義とビデオにより、イギリスの歴史、伝統文化、現代の人々の生活と考え方、イギリスが抱える問題等についてさらに学ばせ、学んだ内容についてペアやグループでディスカッションする。受講生は、あらかじめ、語彙学習アプリ Quizletにより語彙を学んでおくことを求められる。 最後に関連資料を提示し、考えをまとめ、短いエッセーにまとめさせる。	主要授業科目
		American StudiesⅡ	○	この授業では、アメリカ人とアメリカ合衆国及び世界中の重要な問題に関する知識を深め、批判的思考力を伸長することを目的とする。リライトされていないエッセー、スピーチ、演劇、詩、歌等を聴き、読み、話す言語活動を行う。事実と意見をまとめ、口頭発表を行い、グループ単位のディスカッションや発表をすることをとおして英語力を強化する。この授業では歴史と現代の問題の関係を理解させる。すべて英語で進める中級レベルの授業であり、「American Studies I」を履修済みであることが望ましい。	主要授業科目
		イギリス文化研究Ⅲ		この授業は、「イギリス研究I,Ⅱ」、「British Studies I,Ⅱ」で学んだ内容を踏まえ、イギリスの歴史・文化についてより深い知識を習得し、考察することを目的とする。この授業では「イギリス研究Ⅰ,Ⅱ」、「British Studies I,Ⅱ」で学んだ基本的な知識の整理に始まり、イギリスの歴史と文化、現代の姿を理解するために各項目に沿って講義を進めていく。最終回に行われる理解度確認テストのほかに、毎回小テスト、授業内容を確認するクイズを行う。コースの最後に任意の項目についてのレポートを課すので学生は自主的に資料を読み、情報を整理し分析を試みることが求められる。	
		アメリカ文化研究Ⅲ		この授業はアメリカ合衆国に焦点を当て、アメリカの文化を多様な分野から具体的事例を取り上げて、その歴史的背景、争点、多様な意見を検討することを目的とする。アメリカ合衆国の文化と社会に関する幅広い知識を身に付け、係争点を検討することで多様な立場の意見に耳を傾け、自分の意見を発信する能力を鍛えることができる。アメリカ文化に対する幅広い関心を抱き、現代のアメリカ社会を分析する思考を養いたい。授業は講義形式で行い、リーディング・アサインメントと授業プリントを配付する。また、授業の中で随時参考文献や映画なども紹介していく。	
		British Studies Ⅲ		この授業は CLILによって行われ、受講生がイギリスに関する知識・理解とアカデミックな英語スキルを同時に伸長することを目指す。「British Studies I,Ⅱ」に引き続き、講義とビデオにより、イギリスの歴史、伝統文化、現代の人々の生活と考え方、イギリスが抱える問題等について提示し、受講生は学んだ内容についてペアやグループでディスカッションする。受講生は、あらかじめ、語彙学習アプリ Quizletにより語彙を学んでおくことを求められる。 最後に関連資料を提示し、考えをまとめ、短いエッセーにまとめさせる。学期の最後に、授業で扱ったトピックから一つ選び、さらに深く調べ考えたことを発表させる。	
		American Studies Ⅲ		この授業では、アメリカ人とアメリカ合衆国及び世界中の重要な問題に関する知識を一層深め、批判的思考力を伸長することを目的とする。リライトされていないエッセー、スピーチ、演劇、詩、歌等を聴き、読み、話す言語活動を行う。事実と意見をまとめ、口頭発表を行い、グループ単位のディスカッションや発表及びこれらに基づいたエッセーライティングをすることをとおして英語力を強化する。この授業では歴史と現代の問題の関係を理解させる。すべて英語で進める中級レベルの授業であり、少なくとも「American Studies I」を履修済みであることが望ましい。	
		Great Ideas in Science I		この授業は科学（サイエンス）と呼ばれる考え方を探究していく。科学的探究方法の基本手法である観察と実験を中心に、科学の重要な問いや発見について学ぶ。メディアにより報じられる科学とその関連記事を自信を持って読解できるようになることを目指す。考察するテーマの例としては、『地球をどうやって測定したのか』、『どのようにして木星などに探査機を送ったのか』、『機械はどのように動作するのか』、『どうやって発電するのか』、などがある。教師のモデルに倣い、学生同士でミニプレゼンテーションを行い、互いに教え合い、学び合う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		Great Ideas in Science Ⅱ		「Great Ideas in Science Ⅰ」で学んだ科学的方法を用いて、人間と環境についての重要な問いや実験について学び、現在の科学関連の問題を理解することを目的とする。考察する問題の例としては、『物理世界は何でできているのか』、『地球はどうやって暖かさを保っているのか』、『人類はどのように進化したのか』、『私たちの体はどのようにして病気と闘っているのか』、などがある。教師のモデルに倣い、学生同士でミニプレゼンテーションを行い、互いに教え合い、教え合う。	
		時事英語Ⅰ		英語メディアを使って世界の時事問題を学ぶ。授業は、英語圏の報道機関による動画（BBC等）、音声（VOA等）を活用する。トピックは、政治・経済・スポーツ・芸術など多岐にわたってリアルタイムの問題を取り上げる。これにより、英語を学ぶ上で欠かせない英語圏文化の知識、教養を深めることを目的とする。同時に教材用加工のないメディアの生の英語をとおして、TOEIC頻出語彙や文法知識（時制や関係代名詞、分詞など）を実用的に使いこなす問題練習に取り組む。	
		時事英語Ⅱ		「時事英語Ⅰ」に引き続き、英語メディアを使って世界の時事問題を学ぶ。授業は、英語圏の報道機関による動画（BBC等）、音声（VOA等）を活用する。トピックは、政治・経済・スポーツ・芸術など多岐にわたってリアルタイムの問題を取り上げる。これにより、英語を学ぶ上で欠かせない英語圏文化の知識、教養を深めることを目的とする。同時に教材用加工のないメディアの生の英語をとおして、TOEIC頻出語彙や文法知識（時制や関係代名詞、分詞など）を実用的に使いこなす問題練習に取り組む。	
		時事問題研究	○	時事問題について自分の考えを伝える表現力を身に付けることを目的とする。トピックは、就職活動（教員採用試験、公務員試験など含む）の面接において質問が想定されるような世界の重要な社会問題を中心とする。十分な知識をインプットした上で、簡潔なレポートや口頭発表などのアウトプットを行い、志望業界にふさわしい自己表現力を磨く。教材は、日本経済新聞をはじめとする日本語メディア（音声・動画）、またはBBCやCNNなど英語圏のメディアを活用する。	主要授業科目
		デジタルメディア論	○	AIやスマホなどのデジタル技術はグローバルなコミュニケーションをどう変えるのか。変化をただ漠然と想像したり、受け身で捉えたりするのではなく、可能性や課題を的確に見抜き、実践するための考え方、つまり、メディア論を学ぶ。授業は講義と実践の二本立てで行う。講義でテクノロジー（メディア）が人間と文化に与えてきた影響を理論的に学ぶ。その上で、受講者自身がデジタル技術を使った情報発信をウェブ上で行い、社会人として即戦力になるリテラシーを身に付ける。	主要授業科目
		Business Communication Ⅰ		この授業では、世界のグローバル企業（例：IKEA, Uniqlo, Apple）で活躍するビジネスパーソンについて知ると同時に、これらの企業がSDGsにどのように取り組んでいるのかを学ぶ。ビジネス英語において必須の語彙と文法、および会話の型を学ぶ。アイコンタクトや相手との対応の仕方などの、コミュニケーションストラテジーを身に付ける。グループによるロールプレイを通じて、実践的な能力を身に付ける。授業は英語で進めることを基本とする。テキストの演習を済ませて授業に参加することが求められる。	
		Business Communication Ⅱ		この授業では、「Business Communication Ⅰ」に引き続き、世界のグローバル企業（例：IKEA, Uniqlo, Apple）で活躍するビジネスパーソンについて知ると同時に、これらの企業がSDGsにどのように取り組んでいるのかを学ぶ。ビジネス英語において必須の語彙と文法、および会話の型を学ぶ。アイコンタクトや相手との対応の仕方などの、コミュニケーションストラテジーを身に付ける。グループによるロールプレイを通じて、実践的な能力を身に付ける。授業は英語で進めることを基本とする。テキストの演習を済ませて授業に参加することが求められる。	
		Business Communication Ⅲ		この授業では、「Business Communication Ⅰ,Ⅱ」に引き続き、世界のグローバル企業（例：IKEA, Uniqlo, Apple）で活躍するビジネスパーソンについて知ると同時に、これらの企業がSDGsにどのように取り組んでいるのかを学ぶ。テキストは中級レベルのものを用いる。ビジネス英語において必須の語彙と文法、および会話の型を学ぶ。アイコンタクトや相手との対応の仕方などの、コミュニケーションストラテジーを身に付ける。グループによるロールプレイを通じて、実践的な能力を身に付ける。授業はすべて英語で進められる。	
		Business Communication Ⅳ		この授業では、ビジネスキルとして国内の職場でも海外とのやりとりには欠かせなくなった英文電子メールの基礎を学び、ビジネス現場での応用につなげていくことを目的とする。毎回の授業で扱うテキストのUnitで提示される課題についての表現の基礎や語彙を学び、実際にメール文を作成する練習を行う。教科書中の表現だけでなく、一般からビジネス用途まで様々な表現も学ぶ。学習内容の確認のため、毎回の授業後に指示された内容に沿ったメールを送信する。	
		教育英語研究Ⅰ		授業は中学校英語教科書及び中学生・高校生向けの英文法の参考書を用いる。単なる知識ではなく、英語コミュニケーションを支える英文法力を養う指導の基礎的な理論を学び、それに基づいた指導実践をすることができることを目的とする。英語コミュニケーション能力を支える英文法力の理論を扱ったのち、指導法を実践例とともに指導する。個人及びグループで指導案を作成し、発表させる。教員のコメントに加えて、学生にもコメント用紙に記入させ、発表者にコメントを伝える。	
		教育英語研究Ⅱ		授業はテキストと担当者作成の教材を用いる。事実質問と推論質問により英文の内容理解を進める。特に推論質問により、文字通りの浅い理解から深い理解へと進めさせる。その後、英文の内容に関係した論題を与え、意見文を記述させる。意見文を書くことにより、さらに英文の内容理解を深めさせる。クリティカルリーディングの進め方と指導法を身に付けることができる。意見の構築の際はグループ活動を取り入れ、他の学生と意見交換をする機会を設ける。	
		第二言語習得論	○	授業はテキストを使用し、講義と第二言語としての英語指導における言語活動の体験を中心に行う。まず、母語の習得と第二言語習得はどこが異なるのか、そして第二言語習得研究とはどのような学問なのか、なぜ現在、第二言語習得研究が外国語学習とその教育において注目されているのかを、まず理解できるようにする。次に、第二言語学習のプロセス、インプット、アウトプット、動機づけ、学習方略、学習スタイルなど、多面的に第二言語習得のメカニズムの理解ができるよう進める。	主要授業科目
		学習英文法論	○	授業は高等学校レベルの文法テキストを用いる。英語学等の専門科目の授業で学んだアカデミックな英文法を、そのまま中学校・高等学校で教えることはできない。中学校・高等学校で指導されているいわゆる学習英文法を形式・意味・機能の観点から見直し、学習英文法の指導内容を再検討するとともに、その効果的な指導について考察する。不定詞、動名詞、分詞、比較、関係詞、仮定法等を取り上げる。中学校・高等学校の英語教師として指導する際に活かすことができることをめざす。	主要授業科目

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目		小学校英語教育研究Ⅰ		授業はテキストによる学習を基本に、実践的な指導を行う。小学校における英語教育の理論から実践まで学び具体的な授業例を理解する。小学校で英語教育が必要となってきた経緯や現状と、言語習得論を学び、児童に対してどのような指導を行えば効果的な英語の習得を図ることができるかを考察する。同時に、授業1時間の流れに沿って、『聞く』『読む』『話す（やり取り）』『話す（発表）』『書く』の4技能5領域の指導と評価について、様々な手法を学び、教材作成、模擬授業をとおして実践的な指導力を身に付ける。	
		小学校英語教育研究Ⅱ		小学校における英語教育において、ICT活用を進める教材をパワーポイントを使って作成・発表する。本授業では高学年（5・6年生対象）の外国語教育で使えるICT教材について学び学生自身がパワーポイントで作成する。「小学校英語教育研究Ⅰ」で学習した理論や指導法を活用し、主教材（New Horizon Elementary 1&2）の内容を理解して模擬授業に活用する。また、ICT活用の学びも進められているため、特に高学年児童には『読み』『書き』の内容を含めた教材が必要になっている。ICT機器を利用して、文字指導の方法やアプローチ方法を学ぶ。	
		資格英語Ⅰ		TOEICのリスニングスキルとリーディングスキルを高め、高得点を取得することを目標とする。本授業はそのための入門的な位置づけである。まず、TOEICとはどのような試験であるのか、そして高いスコアを取得するためにはどのような能力とスキルが必要なのかを紹介する。リスニング演習では、聴き取りに必要な語彙を習熟しながら、必要な情報を聴き取る練習を重ねる。リーディング演習では、特に本講義は入門レベルであることから、語法・読解問題の基礎となる文法事項を基礎から確認していく。また、TOEIC頻出の語彙・表現を増強することによって、英語運用能力そのものの底上げを図る。受講者の希望により英検やIELTSを扱うこともある。	
		資格英語Ⅱ		TOEICに焦点を当てたリスニングスキルとリーディングスキルを高め、テストで使える即戦力を磨く。TOEICの問題形式に沿ったリスニングとリーディングの演習をとおして、テストで高得点を取得するためにどのように効率よく問題をこなしていけばよいかを学ぶ。リスニング演習では、聴き取りに必要な語彙を習熟しながら、必要な情報を聴き取る練習を重ねる。リーディング演習では、「資格英語Ⅰ」に引き続き、語法・読解問題の基礎となる文法事項を基礎から確認していく。また、TOEIC頻出の語彙・表現を増強することによって、英語運用能力そのものの底上げを図る。受講者の希望により英検やIELTSを扱うこともある。	
		資格英語Ⅲ		TOEICの問題形式を把握し、攻略法を習得することを目標とする。時間配分の調整や速読等のスキルを身に付けることによってTOEIC即戦力を高める。形式を把握し、そのパターンに応じた攻略法を習得する。時間配分の調整や速読等のスキルを身に付けることによってTOEIC即戦力を高める。実践的な問題練習を行う。これをとおして、正解を理解するだけではなく、問題が何を問うているのかを見抜き、他の類似問題でも活用できるような知識を身に付ける。また、単語や文法など必須の基本知識は繰り返して記憶の定着を図る。受講者の希望により英検やIELTSを扱うこともある。	
		資格英語Ⅳ		TOEICの問題形式を把握し、攻略法を習得することを目標とする。時間配分の調整や速読等のスキルを身に付けることによってTOEIC即戦力を高める。形式を把握し、そのパターンに応じた攻略法を習得する。時間配分の調整や速読等のスキルを身に付けることによってTOEIC即戦力を高める。実践的な問題練習を行う。これをとおして、正解を理解するだけではなく、問題が何を聞いているのかを見抜き、他の類似問題でも活用できるような知識を身に付ける。また、単語や文法など必須の基本知識は繰り返して記憶の定着を図る。なお、必要に応じて、授業の構成や順序が変更になる場合もある。受講者の希望により英検やIELTSを扱うこともある。	
		言語ボランティア活動		英語が関係する活動にボランティアとして参加し、英語ボランティアとして役立つ活動をすることができるようになることを目的とする。英語ボランティア活動の例を紹介し、活動の例と期待される役割を学ぶ。次に、英語活動においてロール・モデルとなる必要性と果たすべき役割について学ぶ。これらの研修ののち、大学の英語ラウンジであるLounge MELTで利用者の活動の手助けをしたり、イベント開催のスタッフとして参加したりする。これ以外に、系列高等学校の英語活動にも随時参加する。活動スケジュールは一人ひとり異なるが、合計時間をそろえ単位認定をする。	
		留学の安全と知識		留学を想定して授業を行う。授業は留学地域の基本的な情報、パスポートの取得や留学手続き、海外生活での諸注意、日常英会話と日本の社会や文化を英語で伝える練習など、留学時に最低限必要だと思われる知識と技能を身に付ける。留学に向けて当該地域の基礎知識の習得と語学的な成長を目指すと共に、現地で日本文化を説明できるように、日本文化についてのプレゼンテーションを行う。 （オムニバス方式） （14　長谷川　信／3回） 第1回『オリエンテーション：授業の進め方』、第8回『現地の移動情報、IT関係で準備すべきこと（公共交通機関の調べ方）』、第15回『研修する地域の現状』 （3　伊佐地　恒久／1回） 第2回『本学の留学制度』 （6　熊沢　秀哉／1回） 第3回『研修前の学生の準備・心構えと安全対策』 （10　テイラー クレア／1回） 第4回『地域研究1（オーストラリア、オセアニアの文化・生活・安全）』 （17　横久保　義洋／1回） 第5回『地域研究2（マレーシア、東南アジアの文化・生活・宗教）』 （11　武井　寛／1回） 第6回『人種差別問題（現地の人種差別問題/学生が人種差別を行わないために）』 （13　長尾　純／1回） 第7回『海外で役立つスマホ活用術（アプリ、携帯やPC環境）』 （4　丹羽　都美／1回） 第9回『ハラスメント（加害者/被害者にならないために）』 （12　寺澤　由紀子／1回） 第10回『留学先の基礎知識（英語圏の文化の違い）』 （22　李　嘉／1回） 第11回『オセアニアとマレーシアの使用言語状況（海外で用いられる中国語）』 （16　宮原　淳／1回） 第12回『トラベル英会話（ホームステイ先での会話、海外生活での英語）』 （20　濱中　誠／1回） 第13回『日本を紹介できるように1（自分の地元について日本語で調べる、英語で紹介できるように準備）』 （21　ウィルキンソン　カール／1回） 第14回『日本を紹介できるように2（調べたことを英語で書いてみる）』	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		文章表現		本授業は、指定された形式でレポートを作成することができるようになることを目標とする。ノートテイキング、パラグラフリーディング、パラグラフライティングの技術を習得することによって、最終的に受講者が自ら設定したテーマでレポートを作成することができるようになる。さらに、発表の際に用いるレジュメや発表原稿等の作成も行う。	
		日本語文法Ⅰ	○	本授業では、現代日本語の文法について体系的に概説する。中学校までに習う国文法に基づく体系を批判的に捉えつつ、近代以降の日本語学史・文法学説史や日本語教育の観点から補強する。特に、統叙・展叙や格・接続・包摂関係といった係り受けと、ヴォイス・アスペクト・テンス・モダリティといった述語句構造に関する文法概念を学んで、古典文法や日本語教育文法の学習へとつなげていく。	主要授業科目
		日本語文法Ⅱ	○	本授業では、古代日本語の文法について体系的に概説する。高等学校までに習う古典文法の体系・熟語・訳語・用例を検証しつつ、古代日本語研究や古典文法実用史の観点から補強する。特に、中止法・準体法といった活用形の用法、回想・確述・判断根拠といった助動詞の意味、条件接続・焦点といった助詞の用法、敬意の主体・対象といった敬語法に関する文法概念を学んで、文法史や古典文学解釈の学習へとつなげていく。	主要授業科目
		日本語学入門	○	本授業では、日本語学や英語学で使用される言語学の熟語の考え方を知り、用例を挙げて説明できるようになることを目的としている。術語やその考え方を学ぶと共に、日本語をどのように分析するかを考える。まず、日本語の音声の基礎、アクセント、イントネーションと特殊拍について考える。次に、日本語の品詞、動詞の活用について考え、最後にヴォイス、テンス、モダリティといった文法的カテゴリーについて検討する。	主要授業科目
		日本語学Ⅰ		本授業では、日本語の音声と表記について概説する。まず、日本語の母音と子音、モーラと音節について考える。日本語と英語の対照研究の一つとして、日本語のアクセントの問題について検討する。後半は、上代特殊仮名遣い、日本語の表記、ひらがな、カタカナ、漢字の機能と諸問題について検討する。	
		日本語学Ⅱ		本授業では、日本語を他の言語と比較したとき、どのような特徴があるのかを概説する。まず、言語類型論について概説し、日本語の語順、位相差、役割語について考える。次に、言語を社会との関わりのなかで捉える。日本語が他言語から受けた影響、日本語が他言語に与えた影響といった観点から日本語を捉える。具体的には、海外の日本人学校及び補習授業校、海外に知られている日本語、外来語、日本製の漢語等について検討する。	
		日本語学Ⅲ		本授業では、社会言語学が扱う言語のバラエティのうち、地域方言について検討する。まず、方言学について概説し、日本の方言区画、東西対立・南北対立について考える。そして、岐阜県の方言を概説すると共に、方言周圏論について検討する。全国アホ・バカ分布考、逆周圏分布について考える。そして、方言辞典と方言地図、標準語と共通語の問題について検討し、方言の衰退の問題につなげていく。	
		日本語史Ⅰ	○	本授業では、日本語の歴史について文体・文字・音韻という分野ごとに概説する。変遷として特徴づけられている事象を理解するとともに、各実例の出展となっている言語資料の性格を知る。特に、和文・和漢混淆文といった文体史、仮名・ローマ字といった文字史、上代特殊仮名遣・歴史的仮名遣・現代仮名遣といった音韻・表記史に関する事項を学んで、古典世界に関わる日本語・日本文学・日本文化の学習へとつなげていく。	主要授業科目
		日本語史Ⅱ		本授業では、日本語の文法・語義の変化について文献を読み進めながら具体的に解説する。文語文を対象にして、今日も国語の学習として通用している『読解』や『解釈』という言語活動の規格化の実態を確認しながら、語義・語法の変遷や意味の伝達について考える。特に、語義変化に伴う類義語への語彙的影響、非日常語化した現代訳語、古典文の省筆といった問題を語学的に検討して、日本語表現の解析に活かしていく。	
		日本語学演習	○	本演習では、方言調査で必要なフィールドワークについて概説する。方言調査は現地に行かなければデータをとることができない。フィールドワークには大きく二つの調査方法がある。一つは、母語話者を被験者として、調査票などを使って話者から調査対象となるデータを引き出すエリシテーション調査である。もう1つは、自然会話を分析するテキスト調査である。テキスト調査は、ある特定の言語現象がどのようなコンテキストで使われるかを観察するために行われる。さらに、これら二つの調査方法をどのように組み合わせるかについても検討する。	主要授業科目
		日本文学入門	○	本授業は、専攻における専門的な学習へとつなげていく役割を果たす。文学や芸術作品を読み解くための様々な研究方法を理解して、評価することができるようになることを目指す。そして、日本文学が生み出された歴史と文化の理解を踏まえて、先行研究を紹介しながら、具体的な作品について考察する。	主要授業科目
		日本文学講読A	○	本授業では、翻刻・句読・解釈という古典文学作品の基礎的読解を行う。写本・版本の影印をテキストとして、変体仮名・くずし字の判読に習熟するとともに、時点・注釈書類を参照して本文を解釈し、作品の内容・思想・時代性について考える。くずし字のデータベース、『日本国語大辞典』等の専門的な古語辞典、新編国歌大観・新編全集・新大系等の草書の利用法を学んで、古典文学の本格的学習へとつなげていく。	主要授業科目
		日本文学研究ⅠA		本授業では、日本文学の歴史を深く理解するために中世の説話と和歌を取り上げる。中世文学の歴史を理解し、それを説明する力を身に付けると共に、説話の和歌を原文で読み、その内容や特徴を理解する。毎回、選定された作品の基本的な事項の説明を行い、本文を正しく解釈するための知識を学ぶ。	
		日本文学研究ⅡA	○	本授業では、勧化本と称される近世の大衆向け仏教書を読む。内容を解釈しながら、関連事項に調査を広げて、近世における庶民の信仰と文学・出版文化等について考える。特に、仏教語彙や固有名詞の注釈に留意して、典拠や書継関係の解明を試みる。作品をとおして、当時の人々がどのような関心を持ち知識を求めていたかを追体験できるように、文化・宗教・歴史・地理等に亘った人々の生活の総体を視野に入れていく。	主要授業科目
		日本文学講読B	○	本授業では、近現代文学における代表的な作家の作品を丁寧に講読する。作品を丁寧に読むことによって、語彙や知識を身に付けると共に、それぞれの作品を深く読むための文学理論の基礎概念を学ぶ。さらに、文献資料をとおして、それぞれの作品の時代背景、作家の問題意識等を知ることを目指す。	主要授業科目

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	日本語日本文化専攻専門科目	日本文学研究ⅠB	○	本授業では、語り論について理解し、それぞれの作品の基底にある語りの構造に着目していく。主に取り上げる作品は明治時代の文学である。まず、先行研究を紹介し、研究史を踏まえたうえで、それぞれの作品の理解を深める。受講者は、3～4人のグループに分かれて担当の作品について調査・発表を行う。その発表を中心にディスカッションを行う。	主要授業科目
		日本文学研究ⅡB		本授業では、視点の観点から近現代文学の作品を分析する。主語が主題化され、その省略を許す日本語構文の特徴と作品のなかでの客観的描写、作中人物の視点からの描写等を検討しながら、作家と作家が向き合う現実、そこから生み出される作品世界との関係について丹念に検討する。	
		日本文学史Ⅰ		本授業では、日本文学の時代ごとの特徴を理解し、その時代の代表的な作家や作品についての基礎的な知識を身に付ける。時代区分としては、上代から中世までの文学を扱う。まず、上代の社会と文学との関係を理解する。中古では、詩歌の特徴と主な作品を理解すると共に、物語、日記・随筆、説話・歌謡の特徴と主な作品に関する基礎的な知識を学ぶ。中世では、和歌・連歌の流れ、歌謡だけでなく、物語・説話・日記・随筆、及び芸能の特徴と主な作品について理解する。	
		日本文学史Ⅱ	○	本授業では、「日本文学史Ⅰ」に続き、近世から近現代までの作家や作品についての基礎的な知識を身に付ける。近世の社会と文学との関係を理解すると共に、俳諧、川柳・狂歌、並びに芸能、和歌・漢詩文の特徴について理解する。近現代では、明治期、大正期、戦前昭和、戦後昭和の社会と文学との関係、代表的な作家、作品について理解する。さらに、コンテンポラリーな作家、海外から注目されている日本のポップカルチャーにも焦点を当てる。	主要授業科目
		日本文学演習A	○	本演習では、翻刻・校合・句読・解釈・語釈・鑑賞・批判という一連の注釈作業をとおして、日本古典文学の研究法を学ぶ。所定のテキストを分担して注釈し、その発表をもとに全体で議論すると共に、研究テーマの設定のしかたや調査の方法について解説する。作品・作者の所縁のある名所等を訪れる実地踏査（フィールドワーク）も取り入れて、古典世界を追体験したり歴史文化資源としての活用法を考えたりする。	主要授業科目
		日本文学演習B	○	本演習では、近現代文学の主要な作家の短編小説を主として扱う。具体的には、明治の樋口一葉、夏目漱石から、戦後の三島由紀夫、阿部公房あたりまでの作家・作品を扱う。受講者は与えられた作品について図書館等を使って様々な文献を調べ、語句の細部の意味、用法に着目し、時代背景や表現技法等について検討・発表する。その発表を基に全体で議論し、理解を深める。さらに、先行研究の論文を読みこなすことができるようにする。作品・作者に所縁のある名所等を訪れる実地踏査（フィールドワーク）も取り入れる。	主要授業科目
		日本文化入門	○	本授業では、主に日本の芸術文化の観点から日本の文化を考察する。日本の美術・工芸を概観し、『和』をキーワードにして日本独自の芸術文化への発展を学ぶ。さらに、日本と諸外国の芸術文化や文化遺産との比較を行うことにより、異文化理解や国際理解に対する態度を育む。	主要授業科目
		日本文化研究Ⅰ	○	本授業では、伝統文化から通底する現代の生活様式にみる日本人の美意識について学ぶ。日本美術の色彩と『衣食住』にみる伝統色から日本人の美意識について検討する。さらに、日常の生活空間だけでなく、地域の文化施設の活用とアート鑑賞の環境について、芸術文化の振興の観点から考える。	主要授業科目
		日本文化研究Ⅱ		本授業では、アートと社会との関係をテーマとする。特に、幼少期における遊びを文化として捉える視点にたち、将来を担う子どもの芸術文化の継承と創造について考える。現代アートを中心に、社会と関わるパブリックアートやアートプロジェクト等について学ぶ。	
		日本文化演習	○	本演習では、広義の芸術（絵本、サブカルチャー等を含む）から、今日におけるアートの社会的役割を考察する。特に、岐阜地域に根差した芸術文化をとおして、地域参画・協働、地域活性化の視点を育む。実際に地域を訪れ、現地の芸術文化の実地調査（フィールドワーク）も取り入れる。	主要授業科目
		日本文化実技演習（陶芸）		本演習では、造形素材や表現技法の体験から、ことば以外の自己表現の手段を身に付ける。作品のデザインの検討・制作から培われるアート思考を、社会の中で生かす視点を持つことを目指す。『ものづくり』の楽しさを体感し、諸芸術を愛好すると共に、それらを生活にどのように取り入れるかについて検討する。	
		日本研究Ⅰ	○	本授業は、共通科目の「English Communication D」の応用編として展開されるため、英語で授業が行われる。読書、ビデオ鑑賞、個人研究、グループディスカッションをとおして、様々な視点から日本を探求する。各トピックは2レッスンにわたって行われる。最初のレッスンでは、語彙、調査、理解に重点を置いた探索的な授業で、2回目のレッスンでは、ディスカッション、ディベート、教員からのフィードバック等を行う。扱うトピックは、和食、伝統的文化、ポップカルチャー、日本の自動車産業、多国籍企業等である。	主要授業科目
		日本研究Ⅱ		本授業は英語で授業が行われる。日本の社会問題を探究して、現代日本への理解を深めることを目的としている。批判的思考、討論、問題解決能力を育成し、受講者同士との討論や協力をとおして、地域やコミュニティに影響を及ぼす問題を特定し、解決策を提案することにつなげていく。受講者は毎回、異なるトピックを探究する。扱うトピックは、都市化、高齢化と少子化、健康・福祉、引きこもり、教育問題、貧困・所得格差、ジェンダー問題、自然災害、海外視点の日本である。リーディング課題や討論用の質問が提供されるので、受講者は自分で調べ、情報をまとめ、プレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションに基づき、ディスカッションを行う。	
		比較文学	○	日本の比較文学の研究は主に、西洋と日本の文学を比較するところから始まったが、現在では西洋にとどまらず、世界の様々な地域の文学と日本文学との比較も行われるようになっている。本授業では、イギリス文学と日本文学を取り上げ、その背後にある文化や思想について比較検討すると共に、ストーリーテリングの観点からの比較も行う。さらに、文化交流によって双方の文学がどのような影響を受けているかについても検討する。	主要授業科目
		比較文化	○	本授業では、様々な『日本人論』を取り上げることによって、そこに描かれている日本文化の特殊性について批判的に検討する。対象となる作品は、著作に限らず、テレビ番組、映画、CM、広告、学校教育で使用される教科書、政府資料等、多岐にわたる。他文化との比較を行うことによって、日本文化の相対化を行う。	主要授業科目

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		日本語教育学入門	○	本授業の目標は大きく2つに分類される。前半は、日本語教育を取り巻く社会環境や言語政策、日本語教育の歴史等に関する知識を得る。後半は、外国語としての日本語教育に必要な基礎知識に焦点を当てる。まず、日本語教育と国語教育の違いについて考え、日本語母語話者が日本語について知っている知識について検討する。それを踏まえて、外国人に対する日本語教育の初歩段階で問題となる学習項目について考察する。さらに、日本語学習者の誤用の原因を探る。	主要授業科目
		日本語教育研究Ⅰ	○	本授業では、日本語教育の初級レベルにおける重要な文法項目について、指導方法も含めて検討する。扱う項目は、テンス、アスペクト、可能、受身、使役、使役受身である。外国語教育では、形式と意味の双方の指導が必要となる。これらの文法項目の形式は、ル形、タ形、テイル形、可能形、受身形、使役形、使役受身形となる。日本語教育における活用形の考え方を踏まえて、活用形の指導方法について検討するとともに、それぞれの文法形式の意味、用法について考える。そして、学習者の誤用の分析をすることによって、指導上の問題点を明確にし、効果的な指導方法、特に語用論的な観点も含めて検討する。	主要授業科目
		日本語教育研究Ⅱ		本授業では、日本語教育の初級後半の文法項目のなかで、話し手の視点の影響を受ける文法項目を4つ取り上げ、学習上の問題点について検討する。まず1つ目が指示詞である。指示詞は現場指示用法と非現場指示用法に大きく分類されるが、現場指示用法の基本的な使い分けルールが非現場指示用法にどのように応用されているかを検討する。2つ目は授受表現である。与え手側の描写である『あげる』と『くれる』の使い分けルールを検討すると共に、日本語が話し手の視点を重視する言語であることを確認する。3つ目は話し手の態度を表わすモダリティー表現について検討する。そして、最後に日本語のコミュニケーションスタイルについて、語用論の観点から検討する。	
		日本語教育研究Ⅲ		本授業では、第二言語としての日本語がどのように習得されるのかを多角的に学ぶ。まず、第一言語習得（獲得）と第二言語習得の違いについて検討し、第二言語習得観と第二言語習得研究の変遷について考える。具体的には、対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究それぞれの第二言語習得観と研究方法について概観する。『誤用』の捉え方と中間言語と変異について考えたうえで、これまでの第二言語習得研究で明らかにされた知見をもとに、習得を助ける日本語の授業や活動について検討する。さらに、第一言語は一定の知能があればだれでも獲得できるにもかかわらず、第二言語習得は個人差が激しいと言われている。個人差を生み出す要因と考えられる、言語適性、学習スタイル、動機づけについて検討する。そして、最後に年少者と第二言語習得、日本語教育の問題について考える。	
		日本語教育演習	○	本演習では、会話データの分析を行い、それを日本語教育にどのように応用するかを考える。まず、日本語による初対面会話を実際に録音・録画する。そして、そのデータを使って話題の転換、スピーチレベルシフト、終助詞の使い方等、各自で分析項目を決めて分析する。次に、コーパスを使って接触場面での2者間、3者間会話の分析を行う。様々な文字化の方法があることを調査し、自身の分析にとって最適な文字化の方法を検討する。さらに、日本語教育用テキストにおける『会話文』を分析することによって、自然会話と『教科書会話』を比較し、自然会話の分析結果をどのように日本語教育に応用すればよいかを考える。	主要授業科目
		日本語教育方法論		本授業では、日本語教育の歴史を振り返るとともに、それぞれの時代の日本語教育の背景にある言語学的理論、学習理論について考える。そして、CEFRで言われている5つの言語能力（話す＜発表＞、話す＜やりとり＞、聞く、書く、読む）の指導方法について日本語教育用テキストを基に考える。さらに、レベルによってそれぞれの言語能力の指導法が異なるため、レベル別の指導方法についても検討し、受講者自身がある文法項目に関する教材を作成する。	
		日本語教育実地研究		本授業は、事前指導、日本語学校における実習、事後指導の3つのパートから成る。事前指導では、日本語学校の学生に対する理解を深めると共に、公教育とは異なる教育現場での実習の注意事項について説明する。2週間の実習では、授業観察、教壇実習を行い、日本語教育の多様性について学ぶ。事後指導では、実習ノートの振り返りを行う。	
		言語学入門		本授業では、言語学の基本的な用語と概念を理解し、それら用語・概念を用いさまざまな言語現象を意識的に捉える。例えば、言語を捉える単位の違いや、言語を捉える諸分野を理解するとともに、それらを理解するのに必要となる用語を理解する。扱う分野は、言語の特性、言語学の対象、音声学、形態素、語構成、意味、意味の分析、談話、語用論と多岐にわたる。	
		対照言語学	○	本授業では、対照言語学の諸概念と目的を説明する。さらに、様々な興味深い言語現象に関して日本語と英語、日本語と中国語、英語と中国語などの対照研究の論文を精読することによって、通言語的に各言語間の相違点・類似点を考える。さらに、対照研究で得られた日本語と他の言語の類似点と相違点を知ることによって、通訳・翻訳の時、あるいは日本語学習者に日本語を教える時に留意すべきことを検討する。	主要授業科目
		異文化コミュニケーション	○	現代社会においては、運輸通信技術の高度化に支えられたヒト・モノ・情報などの国境を越えた移動の拡大とそれにともなう地球的規模での『多文化地域』の増大という現実がある。日本も例外なくその渦中にあり、労働、教育等の場面で様々に課題が浮上している。一方で、近年こうした多文化化や多文化主義に抗し、多様性を排除しようとする動きも日本のみならず世界で見られる。本授業では、異文化間コミュニケーションについて身近な経験を土台にしながら新しい知識や視点を獲得し、葛藤や課題がありつつも多様な他者と生きる意味と方略を考え実践することを目的とする。	主要授業科目
		日本語演習		本授業では、アクティブ・ラーニング対応のテキストを使用することによって、受講者自らが結論を導き出すその過程を重要視する。実際には、受講者を3～4人のグループに分け、各グループにテキストの問題を1つ割り当てる。グループのメンバーはテキストのヒントを参考にしながら、話し合い、結論を導き出す。その結果を受講者全員と共有する。授業で扱う項目は、日本語の音声、文字、語彙、語用論、会話のストラテジー等多岐にわたる。第14回目の授業では、漫才の作成に挑戦し、第15回目の授業で、作品コンテストを行う。	
		日本語研究Ⅰ		本授業では、日本における漢字使用の歴史について訓点資料・古辞書・往来物等の文献の調査によって実証的に学ぶ。特に、同一漢字に対する和訓の変遷、熟字訓、同一漢文に対する訓読法の異同・変遷に関して用例を調査して、訓点語彙・漢文訓読史・位相史・言語生活史という研究領域を紹介し、日本語史研究の幅広い可能性を拓いていく。併せて、江戸時代の版本等を利用するなかで、書誌学に関する内容も扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要（人文学部人文学科）					
科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		日本語研究Ⅱ		私たちの社会生活はことばを介して行われることがほとんどである。ことばは人間の社会性の根幹をなすと言える。本授業では、地域以外の社会的要因に焦点をあてて、社会言語学の理論について学ぶ。そして、後半では、会話のしくみ、会話のスタイル、会話の含意、ポライトネス等の具体的な言語現象の事例を挙げて、検討する。最後に言語と思考と文化との関係についても言及する。	
		漢文学Ⅰ	○	本授業では、文学・歴史・思想の3分野にわたる漢文作品を検討素材とし、漢文の基本事項を学ぶ。漢文の基本となる漢字・漢語の成り立ちやその漢字・漢語による漢文の基本構造、その漢文を日本語古文として編成する際の訓点・訓読文の用法と注意点、漢文読解の鍵となる『助字』ならびに使役・受身・反語等の句法の形式とその判別など、漢文訓読法の基本事項について実践的な力を養成する。	主要授業科目
		漢文学Ⅱ		本授業では、主として『漢詩』と総称される韻文の作品群を取り上げる。時代ごとの代表的な漢詩文作品について、その前提となる時代的背景を押さえ、その表現様式と表現内容を吟味する。そして、唐宋を中心とする『漢詩』の歴史的展開を学ぶ。	
		書道Ⅰ		本授業では、文字を正確に理解し適切に書写する能力を育てると共に、思考力や想像力及び文字感覚を養い、文字に対する関心を深め、文字を尊重する態度を育てる。さらに、添削指導の方法についても学ぶ。具体的には、姿勢・執筆法・用材の説明・文字についての基礎知識を学び、基本点画の書き方を理解する。さらに字形について考え、文字の大きさと配置（字配り）を理解し、楷書の古典より臨書する。	
		書道Ⅱ		本授業では、思考力や想像力及び文字感覚を養うと共に、文字に対する関心を深め文字を尊重する態度を育てる。さらに芸術の一分野としての書道の世界について理解する。具体的には楷書と行書の違い、行書の基本的な線と書き方、点画の変化、点画の連続、点画の省略について理解する。行書に調和する仮名、行書における文字の大きさと配列について考え、行書の古典を臨書する。さらに、日本の伝統文化である書道について考える。	
		日本語アカデミックリーディングⅠ		本授業は、大学での学習に必要な高度な文法、語彙、表現を学ぶと共に、現代日本について書かれた文章を読むことによって、現代の日本文化や社会について深く理解することを目的とする。さらに、中・上級の読解能力を養い、自ら問題を発見し、考える力を養う。授業内容の理解を深めるために、指定されたテキスト以外に映像等の資料を使って、知識の定着を図る。	
		日本語アカデミックリーディングⅡ		本授業は、「日本語アカデミックリーディングⅠ」で学んだ知識を使って、自分の専門分野の論文や書物を読みこなすことができる能力を養うことを目的とする。自分自身の研究に必要な資料を集め、それを正しく読みこなすだけの力を養う。さらに、日本語能力検定試験N1レベルの語彙、表現の定着も図る。	
		日本語アカデミックライティングⅠ		本授業は、大学での学習に必要なライティング能力の向上を目指す。レポート、論文の骨格を知り、学術的な文章にふさわしい表現を使いこなすことができるようにする。さらに、読みやすい文章の書き方、読点・句点の使い方、接続表現の使い方等について練習する。	
		日本語アカデミックライティングⅡ		本授業は、レポート課題を正しく把握し、それに沿ったレポート・論文等が作成できるような力を養うことを目的とする。まず、事実と意見の述べ方の違いを知り、文献の正しい引用の仕方について考える。それを踏まえ、レポート・論文の章立ての仕方、序論、本論、結論の書き方について練習する。	
		日本語総合演習Ⅰ		本授業は、場面に適したインターアクションができるようになることを目的とする。インターアクションによって相手と友好な人間関係を構築・維持するためには、言語能力、社会言語能力、社会文化能力が必要となる。これら3つの能力を養うために、場面を設定し、どのようなインターアクションが相応しいのか、そのためにはどのような言語能力が必要なのかを考える。	
		日本語総合演習Ⅱ		本授業は、4つの言語技能と言語知識を有機的に統合し、自分の国のことや自分の考えを日本語で発信できるようになることを目標とする。国を越えて共有できる今日的話題をトピックにし、まず、導入部分でディスカッションを行う。次に、グラフの読み方、グラフの説明の仕方について練習し、トピックについて学生同士で情報の共有が図れるようにする。	
		日本語総合演習Ⅲ		「日本語総合演習Ⅱ」に引き続き、4つの言語技能と言語知識を有機的に統合し、自分の国のことや自分の考えを日本語で発信できるようにすることを目標とする。アンケート調査の計画を立てて、アンケートシートを作成する。実際にアンケートを実施、その結果を発表する。	
		日本語総合演習Ⅳ		「日本語総合演習Ⅲ」に引き続き、4つの言語技能と言語知識を有機的に統合し、自分の考えを論理的に相手に伝えることを目標とする。まず、読み物やグラフ等から得た情報を基にディスカッションを行う。そして、アンケート調査やインタビュー、文献調査を行うことによって、その情報の信ぴょう性について検討する。最終的に、自分自身の考えをまとめた発表原稿を作成し、プレゼンテーションを行う。	
		歴史学入門Ⅰ	○	この授業では歴史学に関する基本的な知識や歴史資料の扱い方について習得しながら、歴史学を学ぶ意義についても検討する。具体的には歴史学の来歴や特徴、研究方法、事実と真実の違い、そして歴史学の社会的意義について学んでいく。それを踏まえた上で、主に日本史を中心に歴史学の手法や重要な概念に注目しながら、史学史を学んでいく。	主要授業科目
		歴史学入門Ⅱ		この授業では、「歴史入門学Ⅰ」の授業をさらに発展させて、歴史学はどのような学問なのか検討する。この授業では、主に西洋史の分野において注目されてきた政治史、思想史、社会史といった分野をとおして歴史学において重要な概念や方法論を学んでいく。さらに、人種や階級、ジェンダーや帝国主義といったキーワードを取り入れて歴史を考えることで、どのように歴史を捉えることができるか学んでいく。	
		地理学入門Ⅰ	○	地理学は、地球上における自然現象と人文・社会現象の相互作用を地域という観点から研究を行う学問である。本授業は、その中でも自然地理学を中心に取り上げ、特に地形や気候、植生、土壌等の自然環境の分布に主眼を置いて考察を進めていく。高等学校における『地理総合』『地理探求』の発展として、こうした自然現象の分布についてその基礎的な事項を学んでいく。	主要授業科目
		地理学入門Ⅱ		この授業では、「地理学入門Ⅰ」に続き、人文・社会現象の分布を中心に使う人文地理学の基礎的な知識を学ぶものである。人文地理学は人間が生活するために空間における人間活動と自然環境の相互作用を研究する学問である。この授業では、人文地理学の基本的な目的と意義、方法論を体系別に日本内外の具体的な内容を事例にして学んでいく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		歴史学調査法	○	この授業では、これから歴史学を学ぶ学生を対象に、歴史の調査方法に関わる基本的な知識を検討する。授業では歴史学におけるさまざまな調査の手法やデータ収集・分析のプロセス、歴史資料の種類やその特徴、さらには史料を調べる上での倫理的な問題などについて、調査の実例を紹介しながら検討する。近年歴史学の分野において、文字で記された史料に加えて、オーラル・ヒストリーや写真・映像などの史料も組み合わせて歴史を捉える重要性が指摘されている。この授業ではこうした新しい研究動向も紹介していきたい。	主要授業科目
		地理学調査法	○	この授業では、これから地理学を学ぶ学生を対象に、地理学の調査方法に関わる基本的な知識を検討する。授業では地理学におけるさまざまな調査の手法やデータ収集・分析のプロセス、フィールドワークの事前作業及び実際にフィールドワークに行った際の倫理的な問題などについて、調査の実例を紹介しながら検討する。授業では、地理学や現地調査地域に関する関連文献の収集や講読、調査方法などについて受講生が発表を行う機会も設けたい。	主要授業科目
		世界と日本Ⅰ		この授業は物事が複雑に絡み合いながら進展するグローバル社会の中で、文化交流という観点から世界と日本の関係を歴史学的に検討する。世界の中で日本はどのような存在であるのか、また日本の中にある世界とは何かを考えていく。授業の中では文化がどのように伝播、または再伝播していくか注目する。異文化を理解する上で、日本は他者をどのように理解してきたか、また世界の国々は日本をどのように見ていたのか考えていきたい。受講生には現状がどうなっているのか自ら調べてグループ・ディスカッションを行い、発表する機会も与えることで理解を深めていってもらいたい。	
		世界と日本Ⅱ		この授業は、「世界と日本Ⅰ」に引き続き、世界と日本の関係を地理学的な視点から検討する。日本の自然資源や気候は世界と比較してどのような特徴があり、それが日本の生活にいかなる影響を与えているのかについて考察を進める。また、地域の人々の生活がどのように営まれ、それが地域の経済や産業をどのように支えて文化が育まれているのか、世界の国々と比較しながら具体的な事例をとおして考えていきたい。受講生には世界や日本の地域について、自ら調べてグループ・ディスカッションを行い、発表する機会も与えながら理解を深めていく。	
		地域研究（地理）		東海三県には豊かな歴史と地理的な条件が揃っている。この授業では、主に愛知県・岐阜県・三重県を中心に東海地域に焦点を絞り、この地域の豊かな自然や環境、人々の生活や産業を地理的な側面から学んでいく。受講生には具体的な地域を調査し、授業の中で発表を行う機会も設ける。授業をとおして地域に対する理解を育み、地域の自然と産業、人々の暮らしについて理解を深めていく。	
		地域研究（歴史）		東海三県には豊かな歴史と地理的な条件が揃っている。この授業では、主に愛知県・岐阜県・三重県を中心に東海地域に焦点を絞り、地域が成り立ってきた歩みや歴史や文化を歴史的に学んでいく。授業ではこの地域の歴史に関連する史料を批判的に読み解きながら、地域の歴史文化を理解する確かな視点を養っていきたい。受講生には具体的な地域の歴史を調査し、授業の中で発表を行う機会も設ける。授業をとおして地域の歴史に対する理解を育み、その土地の歴史と文化に対する知識を深めていきたい。	
		ジェンダー史		この授業は、これまでのジェンダー史の取り組みや成果をたどるとともに、方法論としてのジェンダー史学について考察していく。歴史学においてジェンダーの視座を取り入れることで、これまで見落とされてきた何が見えてくるのか考えていきたい。授業ではフェミニズム理論やクィア理論、ジェンダーやセクシュアリティ、身体論などの多角的な視点を学んでいく。以上のような理論的な整理をした上で、日本や西洋における具体的な事例を取り上げて検討する。さらに受講生には自身の日常的な事例を取り上げてもらい、その権力関係を歴史的に掘り下げていきたい。	
		日本と若者		若者とは誰を指す言葉であろうか。この授業では日本における若者論についてさまざまな角度から考えていく。はじめにこれまで社会学の学問を中心に語られてきた日本の若者論についての議論を整理する。その後、現在の日本の若者がかかえる家庭環境、非行の問題や若者の貧困など、さまざまな問題を事例にあげながら考えていく。受講生には若者の今後の課題や展望など、当事者の視点から具体的なテーマを自ら選び、授業の中でディスカッションや発表も行なってもらう。	
		世界と若者		近年若者に対する関心は世界的に高まっている。先進諸国の若者が抱える学費の高騰とその後の就職難の問題、アメリカ合衆国のZ世代に代表される政治や社会運動に積極的に参加する若者たちなど、世界の若者が抱える問題は多様である。この授業では、このような世界の若者たちが抱える問題や課題について検討していく。受講生は日本と比較しながら同世代の世界の若者たちがどのような問題を抱え、何に悩み、そしてそれに対処しようと努力しているのか考えていく。	
		都市と環境		この授業は、都市と人間の関係を環境の視点から複数の担当教員が各専門分野の知見をもとにオムニバス形式で行われる。日本や外国の都市の環境改善の取り組みや汚染問題の歴史など、近年世界的にも注目されている課題と新たな取り組みについて理解することを目標とする。都市は人間の歴史とともに形成されてきたが、18世紀半ばから19世紀にかけて産業革命を契機に都市が巨大化すると、都市環境に関する様々な問題が露呈されてきた。講義では、各地域の都市環境の問題や今後の課題について解説する。 （オムニバス方式） （11　武井　寛／7回） この授業の目標と内容の説明、授業の進め方、オムニバス方式の注意点、評価方法を中心に解説する。環境問題への取組事例を取り上げて講義を行う。また、授業の振り返りと総まとめを行う。 （14　北村　安裕／2回） 日本古代における都市的空間の発生と展開をたどりながら、都市的空間の特性と問題、およびそこで暮らす人々の動向について考えていく。 （1　柏木　良明／2回） 自然地理学を専門とする担当者によって都市と環境の事例を取り上げて講義を行う。 （24　木村　美幸／2回） 日本史を専門とする担当者によって都市と気候環境、ヒートアイランドの事例を取り上げて講義を行う。 （9　大西　宏治／2回） 人文地理学を専門とする担当者によって日本や世界の都市におけるスラム化、スプロール化等、都市問題の事例を取り上げて講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		世界遺産研究		世界遺産とは、1972年にユネスコ総会で採択された世界遺産条約に基づき、『世界遺産リスト』に登録された、顕著な普遍的価値をもつ建造物や遺跡、景観、自然など、人類が共有すべきもののことをさす。世界遺産といっても多様な形態があり、文化遺産、自然遺産、複合遺産、さらに現在では危機に直面している遺産(危機遺産)などがある。授業では、これらのさまざまな世界遺産を、地域文化、観光資源、環境問題（SDGs）などの多様な視点から検討していく。 （オムニバス方式） （11　武井　寛／7回） この授業の目標と内容の説明、授業の進め方、オムニバス方式の注意点、評価方法を中心に解説する。アメリカ合衆国、ヨーロッパ並びに南アメリカの事例を取り上げて講義を行う。また、授業の振り返りと総まとめを行う。 （14　北村　安裕／2回） 日本の古代・中世に関連する世界遺産を取り上げ、その重要性や意義について検討する。 （1　柏木　良明／2回） 自然地理学を専門とする担当者によって、世界遺産の屋久島、白神山地、知床等の自然環境と人々の暮らしについて講義を行う。 （24　木村　美幸／2回） 日本史を専門とする担当者によって世界遺産の事例を取り上げて講義を行う。 （9　大西　宏治／2回） 人文地理学を専門とする担当者によって、世界遺産の事例を取り上げて講義を行う。	オムニバス方式
		多文化社会論		この授業では、主にアメリカ合衆国を注目しながら、世界や日本における多文化社会について検討する。アメリカは、多様な文化的背景を持つ人びとによって構成される多文化社会として注目される国家である。アメリカ先住民、ヨーロッパのさまざまな国や地域からの移民、奴隷化されたアフリカ人、スペイン語圏からのヒスパニック、そして中国からの移民を筆頭にアジア諸国からのアジア系など、文字通り人種、エスニシティ、文化、宗教などが多様な人びとによって構成されている。この講義では、こうしたアメリカの多文化社会の歴史を中心に扱いながら、多文化社会が浸透しているカナダやオーストラリアなどと比較しながら日本の多文化共生の可能性についても考えていく。	
		日本史概論IA	○	この授業では、古代の日本の歴史を、各時代の人物・事件を中心にひもといていく。講義では、弥生～平安時代を中心とした時期の歴史、および歴史を構成する史料の種類や特徴などについて、各時代の人物・事件に関する学生の発表を入口にして解説する。本講義を通じて、日本史に関する幅広い知識とともに、学問としての日本史学の基礎を習得してもらいたい。	主要授業科目
		日本史概論IB	○	この授業では、中世の日本の歴史を、各時代の人物・事件を中心にひもといていく。講義では、院政期～室町時代を中心とした時期の歴史、および歴史を構成する史料の種類や特徴などについて、各時代の人物・事件に関する学生の発表を入口にして解説していく。本講義を通じて、日本史に関する幅広い知識とともに、学問としての日本史学の基礎を習得していく。	主要授業科目
		日本史概論ⅡA		この授業では、近世の日本の歴史を、各時代の人物・事件を中心にひもといていく。講義では、織豊期～幕末（維新）期を中心とした時期の歴史、および歴史を構成する史料の種類や特徴などについて、各時代の人物・事件に関する学生の発表を入口にして解説する。本授業を通じて、日本史に関する幅広い知識とともに、学問としての日本史学の基礎を習得してもらいたい。	
		日本史概論ⅡB		この授業では、日本の近現代の歴史を、各時代の人物・事件を中心にひもといていく。講義では、明治維新～現代を中心とした時期の歴史、および歴史を構成する史料の種類や特徴などについて、各時代の人物・事件に関する学生の発表を入口にして解説する。本講義を通じて、日本の近現代史に関する幅広い知識とともに、学問としての日本史学の基礎を習得してもらいたい。	
		史料講読IA	○	この授業では、歴史学の基本となる史料の読み方と歴史学的な考え方を検討することで、歴史学における史料批判の技術を身に付けていく。さまざまな歴史的な史料を取り上げながら、受講生は歴史研究の基本となる『史料批判』の技法を実践的に学んでいく。史料は歴史学研究で重要な材料であるが、史料に書かれている情報とは誰が何のために記録し、誰に向けて書き記したのかを考えることが重要である。史料に書かれている内容の事実であるものと、事実でないものを仕分けることが史料批判である。この授業では主に日本史の古代から中世の時代を事例にしながら、史料批判の方法を身に付けていきたい。	主要授業科目
		史料講読ⅡA		この授業では、歴史学の基本となる史料の読み方と歴史学的な考え方を検討することで、歴史学における史料批判の技術を身に付けていく。さまざまな歴史的な史料を取り上げながら、受講生は歴史研究の基本となる『史料批判』の技法を実践的に学んでいく。史料は歴史学研究で重要な材料であるが、史料に書かれている情報とは誰が何のために記録し、誰に向けて書き記したのかを考えることが重要である。史料に書かれている内容の事実であるものと、事実でないものを仕分けることが史料批判である。この授業では主に日本史の近世から近現代の時代の史料を事例にしながら、史料批判の方法を身に付けていきたい。	
		日本史特講I	○	本講義では、美濃・飛騨地域の古代の歴史について検討する。基礎的な歴史研究の方法を学ぶとともに、古代の社会との共通点・相違点の双方に目を向けながら、現代社会に対する理解も深めてほしい。古墳時代から平安時代にかけての美濃・飛騨地域に関わるいくつかのトピックをとりあげ、中央の歴史との関連に留意しながら、そこから浮かび上がる地域社会の様相について講義する。具体的には、同地域の古墳、壬申の乱における美濃地域の役割、御野国戸籍、東山道などを素材としてとりあげる。	主要授業科目
		日本史特講Ⅱ		本講義では、近世の東海地方を中心に、列島上で起きた風水害、地震、津波などの自然災害と地域の対応について検討する。基礎的な歴史研究の方法を学ぶとともに、前近代社会の特質に目を向けながら、近現代社会に対する理解も深めてほしい。それぞれの地域を大きく規定する自然的条件や、政治・経済的な環境にも配慮しながら、災害の様態や復興過程、予防措置等に関する史料分析をとおして、歴史的個性を持つ地域社会の様態とそこで育まれてきた災害文化の特質に迫りたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	歴史地理専攻専門科目	日本史演習Ⅰ	○	この授業では日本史を専門とする各教員が受講生に対して、史料の読解力、文献検索法など、卒業論文作成にむけた基礎的能力を習得することを目指す。卒業論文作成にむけた基礎的能力養成を目標に、概説書・学術論文・史料の輪講、調査・研究法に関する検討を行う。受講生は各自の研究に必要な文献や論文、一次史料の所在地など、卒業研究に向けて必要な基礎的な知識を習得してもらう。授業は演習形式で行い、受講生は数回自分の研究について発表を行う。	主要授業科目
		日本史演習Ⅱ	○	この授業では、日本史を専攻する受講生の卒業論文作成にむけた基礎的能力を養うとともに、卒業研究テーマをある程度絞り込めることを目指す。授業の中では、卒業論文作成にむけた基礎的能力養成を目標に、学術論文及び史料を精読する。また、学期末には、各自が関心を持つテーマについて絞り込むための予備的報告をまとめ、それぞれの方向性について助言を行う。「日本史演習Ⅱ」では、受講生の研究の具体的なフレームワークを完成させてもらいたい。	主要授業科目
		日本史演習Ⅲ		この授業では、日本史を専攻とする学生を対象に、卒業論文作成に向けて研究史を理解し、史料を批判的に用いて立論できることを目指す。受講生は先行研究と自分の研究がどのような違いがあり、その研究の何が新しいのか意識して取り組んでもらう。さらに、受講生には歴史学と歴史教育の関係性についても理解を深めてもらいたい。「日本史演習Ⅲ」では、史料批判を行うとともに受講生のオリジナルの研究視点を見出すことを意識しながら進めていく。	
		日本史演習Ⅳ		この授業では、日本史を専攻する受講生が取り組んでいる卒業研究をテーマに発表してもらい、主に発表とディスカッションを中心に行っていく。受講生の発表とディスカッションを踏まえた上で、必要となる先行研究や史料がある場合には、それらの文献や史料を輪読することもある。「日本史演習Ⅳ」では、受講生が中心となって、それぞれの研究を完成させることを目指す。	
		外国史概論IA	○	この授業は、アメリカ合衆国の歴史について時代別に概観し、基礎的知識を身に付けることを目的とする。授業では、植民地時代から現代までの主要問題を取り上げて検討する。人種、ジェンダー、エスニシティ、階級といった諸要素が複雑に交錯しながら展開されてきたアメリカ史について、社会史の手法も導入しながら考えてみたい。同時に、現代アメリカが抱える問題や現象が歴史とどのように関わっているのかという視点も重視する。受講生が多様な問題意識を育みながら、アメリカを見る目を養っていくことを期待する。授業では随時参考文献や映画も紹介したい。	主要授業科目
		外国史概論IB		この授業は、ヨーロッパやアジア世界の拡大・大航海時代・植民地形成・帝国主義の時代を経て、いっそうグローバル化の進展した社会で、他者と共生するための素養を養うべく、世界史に対する姿勢と思考力を身に付け、学界における歴史学の成果やその提供する世界の捉え方・歴史のものの見方に精通することも、求められる。授業では世界史の概略を確認すると共に、各時代の主要テーマについて、最新の動向を交えつつ検討する。またこれまでの世界史像が形成されてきた歴史的背景についても講義する。	
		外国史概論ⅡA		この授業は、イギリス通史を概観するとともに、『国教会制度』や『紅茶』等のイギリス文化の様々なトピックを取り上げ、イギリスの歴史をより深く理解するのに必要な知識の涵養を図る。各時代にイギリス各地でみられた文化や地域性について理解するとともに、ヨーロッパ／世界の中でイギリスはどのようなあり方をしたかを理解する。さらにイギリス文化・歴史に関するトピックについて、その成り立ちと、現代の文化に与えている影響の双方から理解するとともに、現代のイギリスと世界の諸地域との関係についても理解を深めていく。	
		外国史概論ⅡB		日本の社会や文化、歴史を考える上で、中国の影響を排除することはできない。この授業では、東洋の中核、すなわち伝統中国はどのような原理をもっていたのかを検討する。まずは、自然と人々との関わり、人々の営みを学び、中国と日本・周辺諸国との相互の影響を考えながら授業を進め、東アジア社会を理解するのに必要な基本的枠組を理解していく。そして、東洋的世界への内在的理解を高めることをとおして、日本の社会や文化、歴史について、相対化できる能力を養っていきたい。	
		史料講読IB	○	この授業では、歴史学の基本となる史料の読み方と歴史学的な考え方を検討することで、歴史学における史料批判の技術を身に付けていく。さまざまな歴史的な史料を取り上げながら、受講生は歴史研究の基本となる『史料批判』の技法を実践的に学んでいく。史料は歴史学研究で重要な材料であるが、史料に書かれている情報とは誰が何のために記録し、誰に向けて書き記したのかを考えることが重要である。史料に書かれている内容の事実であるものと、事実でないものを仕分けることが史料批判である。この授業ではアメリカ合衆国を事例にしながら、史料批判の技量を身に付けていきたい。	主要授業科目
		史料講読ⅡB		この授業では、歴史学の基本となる史料の読み方と歴史学的な考え方を検討することで、歴史学における史料批判の技術を身に付けていく。さまざまな歴史的な史料を取り上げながら、受講生は歴史研究の基本となる『史料批判』の技法を実践的に学んでいく。史料は歴史学研究で重要な材料であるが、史料に書かれている情報とは誰が何のために記録し、誰に向けて書き記したのかを考えることが重要である。史料に書かれている内容の事実であるものと、事実でないものを仕分けることが史料批判である。この授業ではヨーロッパを事例にしながら、史料批判の技量を身に付けていきたい。	
		史料講読IC		この授業では、歴史学の基本となる史料の読み方と歴史学的な考え方を検討することで、歴史学における史料批判の技術を身に付けていく。さまざまな歴史的な史料を取り上げながら、受講生は歴史研究の基本となる『史料批判』の技法を実践的に学んでいく。史料は歴史学研究で重要な材料であるが、史料に書かれている情報とは誰が何のために記録し、誰に向けて書き記したのかを考えることが重要である。史料に書かれている内容の事実であるものと、事実でないものを仕分けることが史料批判である。この授業では東アジアを事例にしながら、史料批判の技量を身に付けていきたい。	
		外国史特講Ⅰ	○	この授業は、アメリカ合衆国に焦点を当て、アメリカの文化や社会問題を多様な分野から具体的事例を取り上げて、その歴史的背景、争点、多様な意見を検討することを目的とする。それにより、アメリカ文化に対する幅広い関心を抱き、現代のアメリカ社会を分析する思考を養いたい。授業は講義形式で行い、授業プリントを配付し映像資料も適宜用いていく。また、受講生には具体的なテーマに関して調査してもらい、発表する機会を設ける。その発表をもとにディスカッションを行うことで、受講生には自らの疑問をもとに主体的に取り組んでもらいたい。	主要授業科目
		外国史特講Ⅱ		この授業では、中等教育教科書における外国史関連項目について、史料的根拠をチェックし、内容が正しいかどうかを確認し、そうした活動を通じて教科内容の理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		外国史演習Ⅰ	○	この授業では外国史を専門とする各教員が受講生に対して、史料の読解力、文献検索法など、卒業論文作成にむけた基礎的能力を習得することを目指す。卒業論文作成にむけた基礎的能力養成を目標に、概説書・学術論文・史料の輪講、調査・研究法に関する検討を行う。受講生は各自の研究に必要な文献や論文、一次史料の所在地など、卒業研究に向けて必要な基礎的な知識を習得してもらう。授業は演習形式で行い、受講生は数回自分の研究について発表を行なってもらう。	主要授業科目
		外国史演習Ⅱ	○	この授業では、外国史を専攻する受講生の卒業論文作成にむけた基礎的能力を養うとともに、卒業研究テーマをある程度絞り込めることを目指す。授業の中では、卒業論文作成にむけた基礎的能力養成を目標に、学術論文及び史料を精読する。また、学期末には、各自が関心を持つテーマについて絞り込むための予備的報告をまとめ、それぞれの方向性について助言を行う。この授業では、受講生の研究の具体的なフレームワークを完成させてもらいたい。	主要授業科目
		外国史演習Ⅲ		この授業では、外国史を学んでいる受講生の卒業論文作成に向けて研究史を理解し、史料を批判的に用いて立論できることを目指す。受講生は先行研究と自分の研究がどのような違いがあり、その研究の何が新しいのか意識して取り組んでもらう。さらに、受講生には歴史学と歴史教育の関係性についても理解を深めてもらいたい。この授業では、史料批判を行うとともに、受講生のオリジナルの研究視点を見出すことを意識しながら進めていく。	
		外国史演習Ⅳ		この授業では、外国史を専攻とする受講生が取り組んでいる卒業研究をテーマに発表してもらい、主に発表とディスカッションを中心に行っていく。受講生の発表とディスカッションを踏まえた上で、必要となる先行研究や史料がある場合には、それらの文献や史料を輪読することもある。この授業では、受講生が中心となって、それぞれの研究を完成させることを目指す。	
		歴史学野外演習Ⅰ		この授業は歴史学に関心のある学生と対象に、集中講義として3年生の夏期に行われる。授業では、歴史的に重要な史跡や文化財に関連する具体的なフィールドに出て、その地域の歴史や文化を学ぶために専門的な調査研究方法への理解を深め、それらを用いて調査研究能力を高めることを目的とする。受講生は、担当教員とともに歴史学野外演習のテーマを企画し、事前に準備に必要なことを学んだ上でフィールドワークを行う。また、フィールドワーク終了後には、報告会を開催するとともに報告書を作成する。	
		歴史学野外演習Ⅱ		この授業は歴史学に関心のある学生を対象に、集中講義として4年生の夏期に行われる。授業では、歴史的に重要な史跡や文化財に関連する具体的なフィールドに出て、その地域の歴史や文化を学ぶために専門的な調査研究方法への理解を深め、それらを用いて調査研究能力を高めることを目的とする。受講生は、担当教員とともに歴史学野外演習のテーマを企画し、事前に準備に必要なことを学んだ上でフィールドワークを行う。また、フィールドワーク終了後には、報告会を開催するとともに報告書を作成する。	
		地理学概論	○	この授業では、地理学の基礎的な用語・概念・知識についての講義を通じて地理学的な視点・考え方を習得することを目標とする。地理学は人文・社会現象と自然環境の双方を扱う学問である。人文地理学（都市地理学、経済地理学など）と自然地理学双方の基礎的な用語・概念・知識の理解を通じて、現代社会における諸問題を地理的な視点で捉え、自分なりの考えを持つことができるようにする。まずは、地理学の視点や考え方の基礎について講義を行う。次いで、現代の都市・経済現象を地理学の観点からどのように捉えることができるのか、実例を基に講義していく。	主要授業科目
		人文地理学	○	この授業は、現代社会における都市問題、人口問題、経済格差、環境破壊といった諸問題を地理学の方法論から読み解く術を身に付けることを目標とする。人文地理学は、人間の活動に関係する出来事について『空間的に考える』学問である。本講義では、まずは人文地理学に重点を置きつつ地理学の学問体系や主要概念について学ぶ。つぎに人文地理学の主要概念である立地に焦点をあて、社会の諸問題を読み解く術を学ぶ。最後に、実例を題材にした地理的視点からの意思決定作業にグループ単位で取り組む。	主要授業科目
		自然地理学	○	この授業は、日本や世界の自然環境、特に気候分布について熱収支の観点から考察することを主たるテーマとする。世界や日本の気候分布とそれに関わる地形、植生等の分布及びその成因について把握し、地球環境について地理学の立場から理解を深めることを目標とする。世界各地でみられる人々の生活に深く関わる自然環境について、その特徴と成因を気候分布から考察を進める。	主要授業科目
		地誌学Ⅰ	○	この授業は、世界の様々な地域や日本の様々な地域における地域構成、環境、産業等をテーマとする。その際、地誌を単に暗記するだけでなく、自然環境と人間活動との関係から自ら興味をもって学び理解することを到達目標とする。世界各地の地誌について、気候・地形・植生などの自然条件と農業・工業などの人間活動との関わりについて調べる。講義に加えて、各国の地誌についてディスカッションや、地図作成などの作業を行う。	主要授業科目
		地誌学Ⅱ		この授業は、世界各地の地誌について、気候・地形・植生などの自然条件と農業・工業などの人間活動との関わりについて検討する。講義に加えて、毎回各国の地誌についてディスカッションや地図作成などの作業を行う。 各回とも対象地域から2か国程度を選び、個人またはグループ別にその国の地誌について調査、発表、検討を行う（順番は入れ替わることもある）。なお、発表者にはあらかじめ作成したレジュメについて、対面指導やアクティブラーニング設備を用いた事前指導を行う。	
		地誌学特講		この授業では、世界各地の自然環境、民族・言語、歴史、政治体制、経済システムといった地域ごとの特徴を理解することと、世界各地の諸問題の発生メカニズムを地域の特徴と絡めて考察できるようになることの2点を到達目標とする。講義では、まず地誌学のアプローチ方法を学び、次に日本や世界各地の地誌を学び、各地域が抱える諸問題をローカルな視点とグローバルな視点の双方向から考察していく。世界各地の時事問題に関する話題を受講者に発表してもらい、受講者間でディベートする時間を設ける。	
		地理学特講		地理的事象を考えるための手段の1つに計量的な方法があり、それらは総称して空間分析法と呼ばれている。本講義では、①地図を含む地理情報についてとそれらの取り扱い方、②地理情報について空間分析法を適用するための基礎、③空間分析法を利用した実際の地理的事象の探求事例を授業のテーマとする。まず地理的な考え方および、地理情報、空間分析とは何かを講義する。次いで、空間分析に必要な統計学的知識を講義する。最後に、実際の地理的事象を取り上げ空間分析法による研究法を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		地理学野外演習Ⅰ		本科目は集中講義として行い、3年生の夏期に、毎年違った地域を対象に野外調査を実施する。地理学に関連する具体的なフィールドワークを行い、地域を対象とした専門的な調査研究方法への理解を深め、自然地理、人文地理の調査研究能力を高めることを目的とする。受講生は、担当教員2名とともに地理学野外演習のテーマを企画し事前に十分準備して必要なことを学んだ上でフィールドワークを行う。また、フィールドワーク終了後には、報告会を開催する。	共同
		地理学野外演習Ⅱ		本科目は集中講義として行い、4年生の夏期に、毎年違った地域を対象に野外調査を実施する。地理学に関連する具体的なフィールドワークを行い、地域を対象とした専門的な調査研究方法への理解を深め、自然地理、人文地理の調査研究能力を高めることを目的とする。受講生は、担当教員2名とともに地理学野外演習のテーマを企画し事前に十分準備して必要なことを学んだ上でフィールドワークを行う。また、フィールドワーク終了後には、報告会を開催する。	共同
		地理と情報		地理的事象を考えるための手段の1つに計量的な方法があり、それらは総称して空間分析法と呼ばれている。この授業では、地図を含む地理情報について理論とその取り扱い方を学んでいく。そして地理情報について空間分析法を適用するための基礎を学んだ上で空間分析法を利用した実際の地理的事象の探求事例を検討していく。また、授業の中では、地理情報システム（GIS）の概念を明らかにし、GISによる地理空間分析の社会に対する応用について講義を行う。	
		地理学演習Ⅰ	○	この授業では、地理学の学問的基礎知識を身に付けることを目標とし、自然地理学、人文地理学、地誌学の全分野をテーマとする学術論文の講読を行う。受講生は地理学の学術雑誌を精読し、順番にレジュメを作成する。発表担当者は授業内で自分が選んだ論文を発表し、受講生全員でその内容について討論を行う。	主要授業科目
		地理学演習Ⅱ	○	この授業では、「地理学演習Ⅰ」に引き続き、地理学の学問的知識を身に付けることを目標とする。自然地理学、人文地理学、地誌学の全分野をテーマとする学術論文の講読を行う。地理学の学術雑誌を精読し、順番にレジュメを作成する。発表担当者は授業内で自分が選んだ論文を発表し、受講生全員でその内容について討論を行う。また、この授業ではそれぞれのテーマと関連して、野外巡検を実施することもある。	主要授業科目
		地理学演習Ⅲ		この授業では、「地理学演習Ⅱ」に引き続き、地理学の学問的知識を身に付けることを目標とする。自然地理学、人文地理学、地誌学の全分野をテーマとする学術論文の講読を行う。地理学の学術雑誌を精読し、順番にレジュメを作成する。発表担当者は授業内で自分が選んだ論文を発表し、受講生全員でその内容について討論を行う。また、この授業ではそれぞれのテーマと関連して、野外巡検を実施することもある。	
		地理学演習Ⅳ		この授業では、地理学の学問的な知識とその応用能力を身に付けることを目標とする。この授業では、地理学を専攻とする受講生が取り組んでいる卒業研究のテーマについて、主として発表とディスカッションを中心に行っていく。受講生の発表とディスカッションを踏まえた上で、必要となる先行研究や調査がある場合には、それらの文献の輪読を行うこともある。受講生が中心となって、それぞれの研究を完成させることを目指す。	
		日本文化と仏教Ⅰ		6世紀に日本に伝播した仏教は、日本文化に大きな影響を与え、日本人のアイデンティティー形成に大きく関わっている。この授業では、仏教がどのように人々の間で受容され、どのように日本文化を生み出してきたのか検討する。授業では、中国の寺院建築の伝来によって発展した建築技術、仏像の伝来によって発展した日本の仏教美術、聖徳太子によって始められた仏教の福田思想に基づいた社会福祉事業、諸行無常の理解が進んだことによる、無常観の形成などについて検討していく。	
		日本文化と仏教Ⅱ		6世紀に日本に伝播した仏教は、日本文化に大きな影響を与え、日本人のアイデンティティー形成に大きく関わっている。この授業では、仏教がどのように人々の間で受容され、どのように日本文化を生み出してきたのか検討する。授業では、神道との関わりにおいて生み出された神仏習合思想、禅宗の影響を受けて生み出された茶道、末法思想の流行によって生乱された厭世観と、浄土信仰の流行などについて検討していく。	
		史料講読ⅡC		歴史学の基本となる史料の読み方と歴史学的な考え方を検討することで、歴史学における史料批判の技術を身に付けていく。さまざまな歴史的な史料を取り上げながら、受講生は歴史的研究の基礎となる『史料批判』の技法を実践的に学んでいく。史料は歴史学研究で重要な材料であるが、史料に書かれている情報とは誰が何のために記録し、誰に向けて書き記したのかを考えることが重要である。史料に書かれている内容の事実であるものと、事実でないものを仕分けることが史料批判である。この授業では、法然浄土教が弾圧された承元の法難のきっかけとなった『興福寺奏状』を購読し、法難に関する周辺史料を参照しながら、史料批判の技量を身に付けていきたい。	
		政治学概論（国際政治を含む。）		この授業は、現代政治の仕組みを総合的に理解、考察することを目的とする。そのための前提として、まず、現代政治へと至る歴史を概観する。その後、前半では、現代政治の仕組みがいかに成り立っているのかを、制度の側面から検討する。後半では、現代政治の背景にいかなる思想が存在しているのかを、理論の側面から理解する。	
		社会学概論		社会学は、社会の中で『あたり前』とされている行為や考え方に疑問を呈し、人間の行為や社会に起きている現象を理解し、解読する学問分野である。この授業では、社会学を学ぶ基礎として必要となる概念、視点を理解し、社会学的思考とは何かについて学ぶ。また、社会に立ち現れる様々な問題に関して、社会学という学問分野はどのような視点で研究を行ってきたのか、学問として社会学も概観する。それと同時に、受講生と共に現代社会の諸問題が私たち一人一人にも関係していることについて考えていく。	
		経済学概論（国際経済を含む。）		この授業は、現代社会について経済はどのように機能しているかについて、経済学の入門レヴェルから入る。とくにミクロ経済学の視角を多種多様な経済主体の眼をとおして検討する。典型的には与えられた予算制約の下で効用を最大化しようとする合理的な消費者の視点、および与えられた技術制約の下で利潤を最大化しようとする合理的な企業者の視点、さらに市場経済だけでは解決できない部分をどのように扱うのかについての合理的な政府の視点などを順次考察していく。なお授業の導入部において、内外の経済に関する時事問題について、および話題を集めている書籍について紹介と解説をするように心がける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		哲学概論		哲学というと実生活には役立たず、答えもでないような問いを、難解な言葉を使って延々と考えているだけのもの、というイメージがあるかもしれない。しかし哲学の核心は、だれもが納得できるような深く力強い考え方を生み出そうという努力にある。その営みは長い歴史をかけてゆっくりと、しかし確実に優れた哲学者たちによって積み上げられてきた。この授業では古代から近代までの主要な西洋哲学者を取り上げ、その思想のもっとも重要なエッセンスを学んでいく。また、哲学的な思考法をみずから実践し、体得するために、具体的な哲学者を取り上げ、その哲学者についてグループワークで課題を行う機会も設ける。	
		倫理学概論		私たちは他の人びとともに社会を形成して生きている。そうである以上、『～はよい』『～はわるい』『～すべきだ』『～すべきでない』といった価値規範を一定程度、他の人びとと共有しなければならない。それではある価値規範の正しさや誤りをどのように判断すればよいのだろうか。 倫理学とはまさしく、諸々の価値規範を妥当たらしめる理由・根拠を探究する学問だといえる。この授業では、西洋倫理学史における主要な学説を学ぶと共に、人間の道徳性の本質や、現代社会における倫理的な諸問題について、みずから考え判断をくだす能力を習得することを目指す。	
		教育基礎論		『教育とは何か』と同時に『教育とはどうあるべきか』の両者について、教育改革を含めた現代の諸動向をふまえ、教育と教育学に関する基礎的な理論や具体的な実践を交えて概説する。教育の理念・歴史・実践といった多様な観点から考察することを通じて、人間の理解と発達援助の学としての教育を、より広い視野において学ぶことを目的とする。	
		教師論		現在、大学で養成教育を受けることの意味を、教員養成制度の成立過程や教員の職務や研修内容をとおして理解する。特に、実践的指導力の育成、『教師の資質向上』という政策課題が叫ばれているが、教職に就いた後の自己研鑽の積み方との連続性の中で捉えた場合、大学での養成教育はその教職人生の土台となるべきものである。それを理解した上で、現在の大学での学習への取り組み方を考えていく。	
		教育の社会制度論		①公教育の原理と課題、②教育行政制度、③学校という制度・組織という教育制度に関する3つのテーマをとおして、学校教員の日々の教育活動を下支えする公教育制度とその根拠となる法的規定を理解するとともに、教育の制度に関する諸問題を、社会変動や社会構造の観点も交えながら考察することを目的とする。とくに公教育のあり方や学校教育のあり方について、基礎的知識を踏まえたうえで現代の課題とは何かを理解する。その際に教育が政治や行政システムとも関連することを学ぶ。基礎知識を獲得し、獲得した知識をもとに各テーマの現代的課題について学生自身の教育観や教師像を深めるために考察する。	
		教育心理学		教育・保育を行うなかで必要となる人間の発達と教育・保育との関連、学習のメカニズム、人間の知的機能の概略、動機づけの過程と意欲を引き出す働きかけ、教育・保育上考慮すべき人間関係といった諸問題について取り扱う。	
		特別支援教育基礎		中学校・高等学校で教員になる際に、備えておきたい知識・理解や心構えをわかりやすく解説するとともに、実際の学校生活で見られる事例を具体的に取り上げながら、対応の仕方をグループワークなどを通じて学びあう。	
		教育課程論		教育課程（カリキュラム）の意義と編成方法について学ぶことを目的とする。児童生徒の人格的発達を保障するという学校教育の課題が、学校教育の場面でどのようなかたちで計画され実践されているのかを具体的に検討していく。教育課程について理論的・実践的・歴史的な観点において幅広くアプローチすることによって、現在・過去・未来の教育課程と学校での教育実践の関係について考える。	
		道徳教育の指導法		道徳教育についてのさまざまな理論と実践を紹介しながら、学校での道徳科をどう構想し展開するか、具体的な課題の探究を中心にして、私たちの生き方との問題として道徳教育を再考することを目的とする。児童生徒に道徳を指導するためのスキルを身に付けることがこの授業での最大の目標である。あわせて私たちが『道徳的に生きる』ことの意味について探る。	
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法		特別活動や総合的な時間の目標と内容、指導計画の作成と内容の取り扱い等についての理解においては、先駆的実践例を豊富に紹介し理念と実践をつなげられるよう配慮する。そして、生きる力（資質・能力）の育成にあたっては、特別活動、総合的な学習の時間、特別の教科道徳との有機的連携を図り、特に望ましい人間関係の育成を意図した適応指導や自治的活動・学校行事等の改革に向けた指導計画づくりや授業展開の在り方を重視する。	
		教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）		社会的背景の変化や急速な技術の発展により、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けてICTの活用が求められている。ICTを活用した教材研究および学習活動の検討をするとともに、ICTを効果的に活用した授業を設計して発表する。	
		生徒・進路指導論		生徒指導の意義や方法に関する心理学的な考え方を提示する。児童生徒の肯定的な自己感の育成や集団規範を非行やいじめの問題と関連させて論じる。教員組織の連携のあり方や保護者対応についても示す。キャリア教育の意義や方法に関する心理学的な理論や方法を述べる。地域との連携を重視したコミュニティ・スクールによるキャリア教育についても紹介する。	
		教育相談		学校では、不登校、いじめ、発達障がい、自傷、摂食障害など、特別な配慮や支援を必要とする子ども達が少なくない。この授業では、学校現場でそうした子ども達を支えるための教育相談システム、子ども達の心身の状態についての理解、適切な支援の仕方、学級集団や保護者へのアプローチの仕方などを概説する。	
		介護等の体験（含事前事後指導）		1年次から2年次にかけて、11回の事前・事後指導と、特別支援学校及び社会福祉施設において計7日間の介護等体験実習を行う。	
		中学校教育実習（事前事後）		中学校教育実習参加前に6回の事前指導、参加後に2回の事後指導を学内で実施する。	
		中学校教育実習		岐阜県の市町教育委員会を中心に『教育実習等連携協力に関する協定』を締結している地域の中学校において、4週間の教育実習を実施する。	
		高等学校教育実習（事前事後）		本学と同一の設置者が設置する高等学校教育実習参加前に6回の事前指導、参加後に2回の事後指導を学内で実施する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程科目	高等学校教育実習		本学と同一の設置者が設置する岐阜聖徳学園高等学校や学生の出身高等学校において、4週間の教育実習を実施する。	
	教職実践演習（幼・小・中・高）		『教科及び教科の指導法に関する科目（4回）』と『教育の基礎的理解に関する科目（11回）』で構成する。教職課程の集大成として開講する。オムニバス形式で開講し、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科の指導力に関する事項を盛り込む。 （オムニバス方式） （3　伊佐地　恒久／4回） 教科及び教科の指導法に関する科目 （15　長谷川　信／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （59　玉置　崇／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （60　安藤　史高／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （62　福地　淳宏／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （63　中島　葉子／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （64　成田　絵吏／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （66　吉田　琢哉／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （67　芳賀　高洋／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （68　後藤　綾文／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （69　山田　貞二／1回） 教育の基礎的理解に関する科目 （70　蔵冨　恵／1回） 教育の基礎的理解に関する科目	オムニバス形式
	中等教科教育法Ⅰ（英語）		英語教育に関する基本的な知識の獲得を中心とする過程を仕組み、教科書や参考資料に基づき講義する。自らの英語教育に関する理論を構築する過程を設け、講義で獲得された認識を広げるための意見交換をし、基本的な授業構成の考え方を扱う。性急に個別的な技法の獲得にとらわれることなく、英語教育指導の基本的な考え方を養う。	
	中等教科教育法Ⅱ（英語）		テキスト等により英語科教育の基本的な知識を学ぶとともに、実際の授業の組み立て、学習指導案の作成など、理論的裏付けがある指導を実践するための基礎固めを行う。	
	中等教科教育法Ⅲ（英語）		「中等教科教育法Ⅰ,Ⅱ」で学んだ英語教育の知識・理論をもとに基礎的な実践を深めながら、中学校・高等学校において四技能五領域のバランスのとれたコミュニケーション能力を育成する授業を展開できる力を養成する。具体的には、中学校英語科学習指導要領、高等学校英語科学習指導要領等をもとに教材研究、教材作成、模擬授業など、実践的な指導を行う。模擬授業は、英語で進めることを基本とする。	
	中等教科教育法Ⅳ（英語）		「中等教科教育法Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」で得た中学校・高等学校の英語教育についての知識・理論を基にして、四技能五領域のバランスの取れたコミュニケーション能力の育成のための指導実践ができるようにする。教育実習に向け、中学校英語科学習指導要領、高等学校英語科学習指導要領をもとに、教材研究、教材作成、模擬授業などを行う。模擬授業は、英語で進めることを基本とする。	
	中等教科教育法Ⅰ（国語）		国語科教育の目標・内容を、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領をとおして正しく把握する。文学的な文章、説明的な文章の教材研究の方法を理解し、教材分析を行い、指導法を実践的な場面を想定して考える。各自の教材分析・指導法について発表し、検討する。また、基本的な学習指導案を作成することで、教材研究の内容を再度考察する。	
	中等教科教育法Ⅱ（国語）		古典教材・古典文法・古語に関する基礎知識を確実に定着させるため常に確認する。古典の教材分析を行い、指導法を実践的な場面を想定して考える。各自の教材分析・指導法について発表し、検討する。また、基本的な学習指導案を作成することで、教材研究の内容を再度考察する。	
	中等教科教育法Ⅲ（国語）		文法・語彙・表記・位相など、言葉の特徴や使い方に関する教材を分析するときに、学習者の理解を促すためと、自己の国語力を向上させるために、教材以外から多くの事例を集めて整理する。それらの事例を授業を構想するときに活用し、実践的な場面を想定して指導法を考える。各自の教材分析・指導法について発表し、検討する。また、基本的な学習指導案を作成することで、教材研究の内容を再度考察する。	
	中等教科教育法Ⅳ（国語）		実際に指導する場面を想定して、指導過程における諸問題・諸技術を中心に扱い、検討・考察する。学習指導要領の学年の目標に従い、教材の指導目標をたて、正式の学習指導案を作成し、グループの中で発表・検討する。作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、検討ののち改善案を出す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	中等教科教育法Ⅰ（社会・地理歴史）		学習指導要領に関わる内容（要説）では分化社会科や社会科再編論などの論点をとおして、その基本的な枠組みを検討する。具体的な授業プランをとおして、社会の見方や考え方に関わる学習内容について理解（授業研究論、教材研究論）を深めていく。教科書の学習内容を分析し、学習指導案の作成（授業設計論）に取り組む。世界の諸地域や日本の諸地域に関する学習内容（教材内容論）を題材にSDGsの観点を導入した学習指導案をグループごとに作成し、模擬授業を実施する。事例研究をとおして、学習指導案の作成や教材研究、授業づくりなどの専門的な知識や実践的な指導力を身に付ける。	
	中等教科教育法Ⅱ（社会・地理歴史）		学習指導要領に関わる内容（要説）では系統的学習論や主題学習論などの論点をとおして、その基本的な枠組みを検討する。具体的な授業プランをとおして、社会の見方や考え方に関わる学習内容について発展的に捉え、理解（授業研究論、教材研究論）を深める。教科書の学習内容を分析し、学習指導案の作成（授業設計論）に取り組む。歴史に関する学習内容（教材内容論）を題材にして、模擬授業を実施する。事例研究をとおして、学習指導案の作成や教材研究、授業づくりなどの専門的な知識や実践的な指導力を身に付ける。	
	中等教科教育法Ⅲ（社会・公民）		社会科の学習指導要領を中心に、各学年の社会科の授業の内容と組み立て方を理解すると共に、指導案の在り方を吟味し、実際に使用できる指導案を作成できるようになる。また、実際の授業で活用できる実践力が身に付くように、模擬授業を実施し授業の運営力が習得ができるようになる。そのためにテーマである公民的資質の基礎を培うための中学校社会科の具体的な指導方法、学習問題や指導目標の作り方を会得することとする。	
	中等教科教育法Ⅳ（社会・公民）		公民科の目標を理解し、公民科の基本的な内容を捉える。地理歴史科と公民科の違いを捉える。公民科の各科目ごとの特色を捉え、先行実践や提案実践の分析を行う。公民科の授業を構想するための教材研究を行う。公民科の学習指導案を書き、模擬授業を行う。	
博物館学芸員資格科目	生涯学習概論		生涯学習について、歴史的展開や法整備の流れをふまえながら、個々の学習者が生涯にわたり学び続けることがいかに実現されるべきかという理念を考察し、総合的に理解することを目的とする。この授業では、生涯学習の理念、理論、政策（史）、具体的事例、展望をとおして、人間が生涯にわたって学習することの意味を総論的に捉えていく。こうした課題は間接的には、受講者が自身の学びを省察し人間としての在り方や生き方を探求する態度や、生涯にわたる学習を積極的に支援しようとする態度を養うことにもつながっている。	
	博物館概論		今、博物館は、指定管理者制度の導入や学芸員制度の見直しなど、大きな岐路に立たされている。この授業では、こうした現状を見すえながら、博物館の理念、歴史、将来像、学芸員の役割などについて検討する。 （オムニバス方式／15回） （24　木村　美幸／2回） 第1回目：博物館の誕生と博物館史 第2回目：博物館の理念・目的と国際組織 （68　秋山　晶則／1回） 第3回目：博物館の法制〔博物館関連法令〕 （14　北村　安裕／1回） 第4回目：世界の博物館①〔日本・アジア〕 （11　武井　　寛／1回） 第5回目：世界の博物館②〔アメリカ等〕 （69　宮野　裕／1回） 第6回目：世界の博物館③〔ロシア・東欧〕 （72　森田　匡俊／1回） 第7回目：世界の博物館④〔イギリス等〕 （75　中井　正幸／4回） 第8回目：博物館の運営〔指定管理者制度にみる管理と課題〕 第9回目：博物館と学校連携〔古墳の活用とふるさと学習〕 第10回目：博物館と観光連携〔地域活性化にみる博物館の役割〕 第11回目：パブリック・アーケオロジーの導入に向けて （76　尾坂　知江子／4回） 第12回目：博物館と資料〔自然科学系博物館を例に〕 第13回目：博物館と展示 第14回目：博物館と教育 第15回目：博物館機能と社会□	オムニバス方式
	博物館経営論		博物館経営の現状と課題について、日本の地方公立博物館の経営を中心に、現場の実例を紹介しながら論じる。近年、博物館の経営が岐路に立たされている中で、博物館の社会的使命と存在意義を確認し、いかに運営するか、本来あるべき姿について考える。	
	博物館資料論		博物館が扱う資料の種類、構造と特徴をふまえ、調査、分類から保存、活用にいたる専門的知識の一端を学ぶ。記録史料（アーカイブズ）については古文書、自然史資料では化石など、具体的な『モノ』に触れつつ、調査・管理・展示の実際についても検討を行う。 （オムニバス方式／15回） （24　木村　美幸／4回） 第1回目：博物館資料とは何か（博物館資料の歴史） 第7回目：調査研究活動（人文系資料一般） 第10回目：資料の修復・保存・公開（人文系資料一般：展示企画、教育普及、目録等の印刷出版、デジタルアーカイブなど） 第15回目：博物館資料をめぐる諸問題 （73　川上　紳一／3回） 第2回目：博物館資料とは何か②（博物館資料としてのモノ） 第6回目：資料の収集・整理（自然系資料） 第9回目：調査研究活動（自然系資料） （18　齋藤　正人／1回） 第3回目：資料の収集・整理（美術資料） （68　秋山　晶則／2回） 第4回目：資料の収集・整理（古文書等） 第11回目：資料の保存・公開（記録史料＝アーカイブズ） （14　北村　安裕／3回） 第5回目：資料の収集・整理（拓本等） 第12回目：資料の受入・保存・管理 第13回目：資料の活用（展示開発・教育普及） （74　大石　真由香／1回） 第8回目：調査研究活動（古典籍資料） （70　河智　義邦／1回） 第14回目：資料取扱の要諦（人文系資料）	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部人文学科）

科目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	博物館資料保存論		博物館資料について、資料劣化の要因、資料修理の理論、資料の収蔵と展示環境、燻蒸とIPMの考え方、文化財行政との関わり、資料のデジタル化とアーカイブス史料保存、資料複製など保存に関する知識を習得する。	
	博物館展示論		博物館における展示について、展示方法、展示環境、展示形態の種類、展示説明解説などについての理論や知識・技術を習得する。	
	博物館教育論		博物館における重要な機能である教育と学びの意義及び特性をまず把握する。その上で、博物館という場で市民が学習するさまざまな形態や、博物館と学校が連携する効果的な学びのかたちなどを具体的事例をもとに考察し、地域社会における生涯学習機関としての博物館のあり方について考える。	
	博物館情報・メディア論		博物館に存在するさまざまな情報の内容とその提供および活用のありかたについて、意義と課題について演習を取り入れながら講義を行う。また、博物館における情報の形成過程の一端を実践的に知るため、『モノ』『コト』の情報化の実習を屋外にて実施する。また現地において博物館情報の実際について知る。	
	博物館実習		資料に即した形で、博物館における調査・研究、収集・保存・管理、展示・教育・普及などの専門的事項、業務内容について理解できるよう、学内及び博物館施設での実習を体験する。	
	考古学		考古学がどのような方法論にたつ学問なのか、日本に導入された方法論がその後どのように展開しながら現代社会と関わりをもったかを学ぶ。また、実際にフィールドに出て遺跡の立地や地形を確認する実践を行うとともに、考古学資料（石器・土器など）について博物館で実際に扱う学外研修を実施する。	

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。